

平成記念公園活性化基本計画

岐阜県都市建築部都市公園整備局都市公園課

目 次

第 1 章 基本計画の前提	．．．．	1
1 目的		
2 対象		
3 検討手順		
第 2 章 与条件等の整理	．．．．	3
1 岐阜県都市公園活性化基本戦略（平成 28 年 10 月策定）		
2 関連計画・社会動向		
3 現況把握		
4 公園の現状分析		
5 課題		
第 3 章 活性化に関する基本的な方針	．．．．	3 7
1 基本方針		
2 公園運営の考え方		
3 公園の名称		
第 4 章 活性化基本計画	．．．．	4 4
1 ゾーンの設定		
2 動線計画		
3 現況施設活用方針		
4 全体計画平面図		
5 整備スケジュール		
第 5 章 運営管理方針	．．．．	5 9
1 年間利用者数の算定		
2 収支分析		
3 管理運営方法		
4 供用区域		
5 推進体制		
6 周辺地域との連携		
7 今後の検討課題		
第 6 章 集客強化計画	．．．．	6 2
1 開催イベント		
2 食・おみやげ等		
3 情報発信		

第1章 基本計画の前提

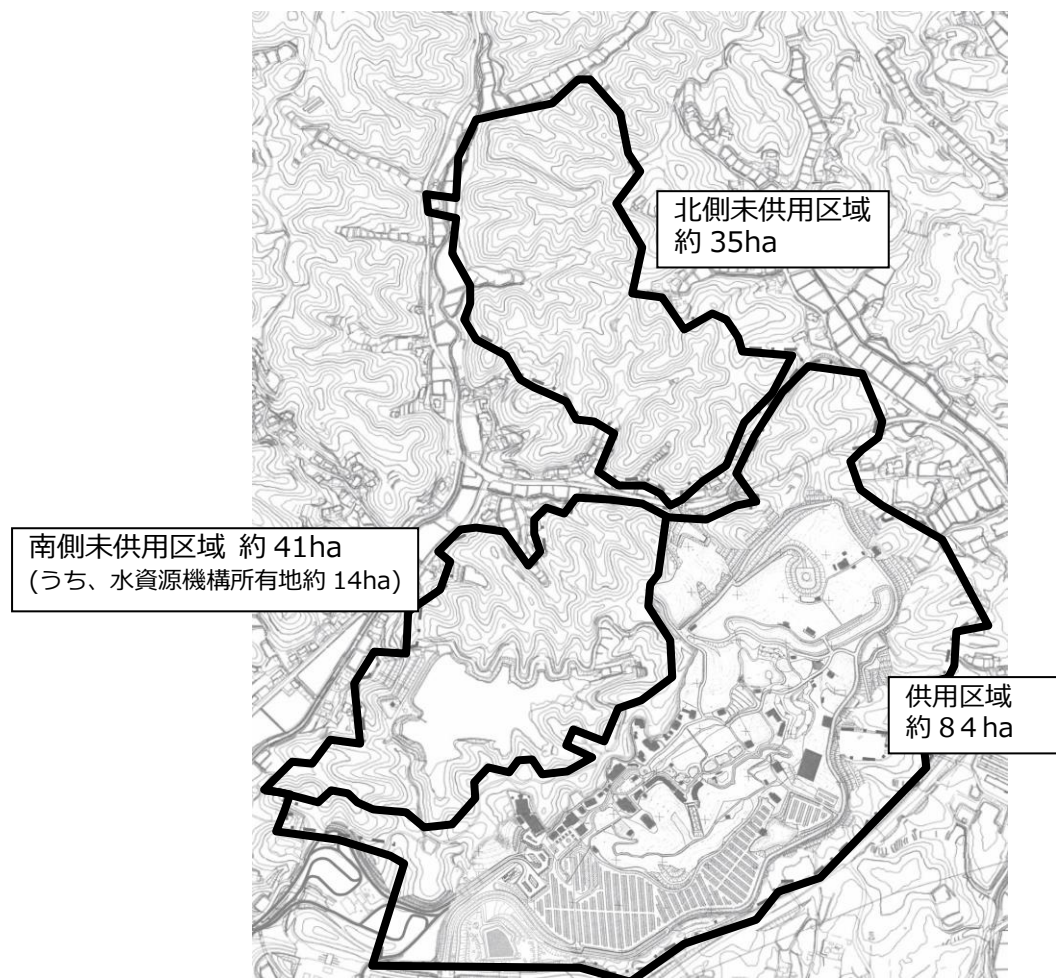
1 目的

本計画は、平成28年10月に策定された「岐阜県都市公園活性化基本戦略」で示された戦略テーマ及び取組方針をもとに、平成記念公園が交流人口の拡大や県民活動の充実等に資する公園となるよう具体的な手法を策定するものである。

2 対象

本計画の対象は以下のとおりとする。

- ・対象区域：美濃加茂市山之上町、蜂屋町地内（下図参照）
- ・対象区域面積：約160ha
 - 供用区域面積：約84ha
 - 未供用区域面積：約76ha



3 検討手順

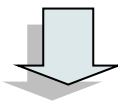
●平成記念公園のマーケティング分析と戦略の検討

- ・公園の利用状況（利用者数の推移）
- ・誘致圏域の検討
- ・ターゲット層の検討
- ・年間利用者数の想定
- ・競合施設との差別化の検討



●広域的視点からの平成記念公園の位置づけの検討

- ・公園と地域の宝物（清流長良川の鮎等）をつなぐ検討
- ・高速道路延伸による誘致圏の拡大に伴う「立寄型利用」を中心とした利用者増に対応するハイウェイオアシス機能の強化の検討



●平成記念公園活性化基本計画の策定

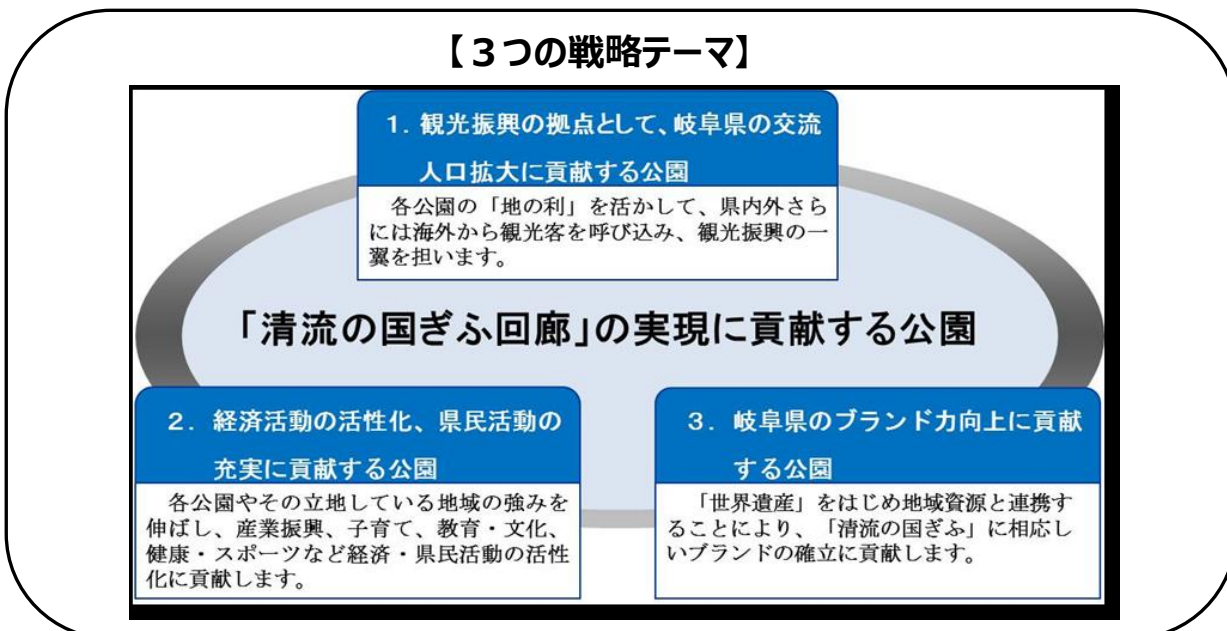
- ・活性化に関する基本的な方針
- ・活性化基本計画
- ・管理運営体制
- ・集客強化計画

第2章 与条件等の整理

1 岐阜県都市公園活性化基本戦略（平成28年10月策定）

岐阜県都市公園活性化基本戦略（以下「基本戦略」という。）は、県内の主要の4つの公園（花フェスタ記念公園、養老公園、世界淡水魚園、平成記念公園）について、学識経験者、花き振興、子育て支援、観光振興、報道、産業、公園所在首長、行政など幅広い分野の有識者からなる「岐阜県都市公園活性化懇談会」や各公園の運営協議会等の意見を反映し、平成28年10月にとりまとめられた。

基本戦略では、県営公園が目指すべき「3つの戦略テーマ」を設定し、各公園のポテンシャルを最大限に発揮すると同時に、県の主要施策である「清流の国ぎふ回廊」の拠点としての役割を強化するための施策を展開していくこととしている。



「3つの戦略テーマ」を実現するために、各公園で取り組むべき「6つの取組方針」を定め、これにより各公園の魅力向上と地域資源との連携を図り、「清流の国ぎふ回廊」の実現に資することを目指している。

【6つの取組方針】

①地域に愛される公園づくり

②四季折々の魅力を持つ公園づくり

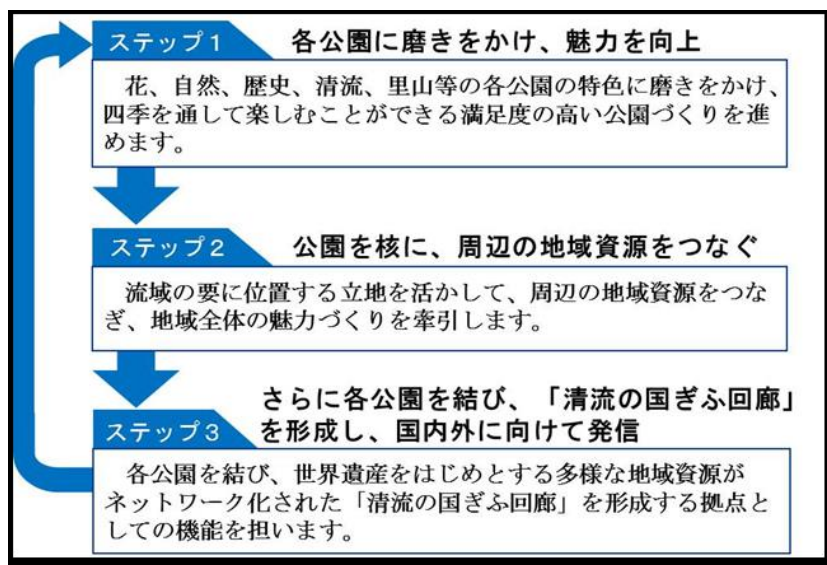
③地域の振興に資する公園づくり

④地域資源をつなぐ公園づくり

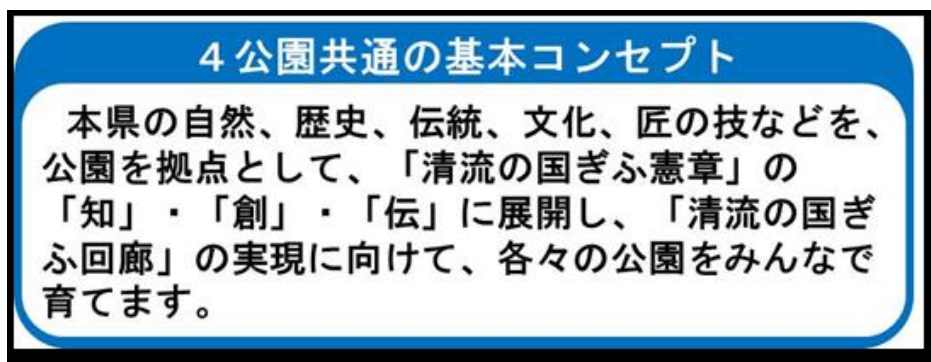
⑤人を育む公園づくり

⑥多様な主体が参画する公園づくり

「3つの戦略テーマ」、「6つの取組方針」とともに、その取り組み手法として、「3つのステップ」を戦略的、段階的に展開し、各ステップを着実に実施することで、各公園の活性化と「清流の国ぎふ回廊」のブランド形成を目指している。



こうした「3つの戦略テーマ」「6つの取組方針」「3つのステップ」により、4公園が目指す共通のコンセプトとして以下の「4公園共通のコンセプト」を定めている。



この共通コンセプトに沿って、公園ごとに基本コンセプトが定められ、平成記念公園においては、以下のとおり設定している。

【平成記念公園の基本コンセプト】

「人と自然が共生する里山の暮らしと文化に親しむ」

また、基本コンセプトを実現するための課題として、以下の項目を設定している。

- ・利用者ニーズに応じた施設配置や管理運営方法などの全面的な見直し
- ・里山環境を活かした外遊びプログラムの充実
- ・里山文化が育んできた「匠の技」の体験
- ・森林文化アカデミーとの連携による実践的な環境教育の展開
- ・公園の魅力を端的に表す公園名称への変更と利用しやすい料金体系の検討

2 関連計画・社会動向

(1) 自然環境を取り巻く動向

近年の自然環境を取り巻く主な動きは、以下のとおりとなっている。

「清流の国ぎふ憲章」(岐阜県 H26)

- 知** 清流がもたらした自然、歴史、伝統、文化、技を知り学びます
- 創** ふるさとの宝ものを磨き活かし、新たな創造と発信に努めます
- 伝** 清流の恵みを新たな世代へと守り伝えます

「生物多様性条約 COP13」(H28)

生物多様性条約および生物多様性戦略計画 2011-2020 の実施を強化する戦略的行動としては、農林水産業および観光業を含む様々なセクター内および複数のセクターにまたがる主流化に向けて、ステークホルダーの関与などにより努力を強化することを締約国に強く求めることとなった。また次のカテゴリ別に具体的な勧告が提示された。

- ・ 関連国際プロセスを通じた主流化の強化
- ・ セクター横断的な主流化
- ・ セクター別主流化
(農業、林業、漁業および水産養殖業、観光業)
- ・ 主流化を強化するための主要主体の参画
(企業、準国家および地方自治体、先住民および地域
コミュニティ、科学コミュニティ、ジェンダー)

「SATOYAMA イニシアティブ」(H22)

生物多様性の保全にとっては、原始的な自然を保護することのみならず、人々が古くから持続的に利用や管理してきた農地や二次林など、人間活動の影響を受けて形成・維持されている二次的自然環境（社会生態学的生産ランドスケープ）の保全も同様に重要である。これらの二次的自然環境には、多様な種がその生存のために適応・依存しており、その維持・再構築が生物多様性の維持・向上に重要な役割を果たします。しかしながら、これらの自然環境やそれを形作ってきた持続可能な慣行や知識は、都市化、産業化、地域の人口構成の急激変化等により、世界の多くの地域で危機に瀕しています。これらの二次的自然環境を持続可能な形で保全していくために、その価値を世界で広く再認識するとともに、早急かつ効果的な対策を講じていくことが求められている。

この緊急な課題に取り組むため、環境省と国連大学高等研究所（UNU-IAS）は SATOYAMA イニシアティブを提唱。

(2) 社会環境を取り巻く傾向

社会環境を取り巻く主な動きは、以下のとおりとなっている。

「新たな時代の都市マネジメントに対応した都市公園等のあり方検討会」 (国交省 H28)

1. ストック効果をより高める
2. 民との連携を加速する
3. 都市公園を一層柔軟に使いこなす

「Park-PFI（PFI/PPP 手法による新たな公園の整備手法）の創設」

○民間事業者による公共還元型の収益施設の設置管理制度の創設

収益施設（カフェ、レストラン等）の設置

管理者を民間事業者から公募選定

設置管理許可期間の延伸（10年→20年）、建蔽率の緩和等

民間事業者が広場整備等の公園リニューアルを合わせて実施

「昇龍道プロジェクト」（中部運輸局他）

中部運輸局、北陸信越運輸局及び中部広域観光推進協議会は、中部北陸9県の自治体、観光関係団体、観光事業者等と協働して中部北陸圏の知名度向上を図り、海外からのインバウンドを推進するため、「昇龍道プロジェクト」を立ち上げた。魅力的な観光資源が凝縮している中部北陸圏の海外へのプロモーション、中部北陸圏によるおもてなしの心と受入環境のレベルアップについて、関係者が効果的かつ一体的に取り組む。

「岐阜県成長・雇用戦略」（岐阜県 H25）

県経済の発展と雇用拡大を目指し、県内産業界を代表する方々との意見交換会での議論を基にとりまとめた、産業政策の基本的な方針。同戦略では、外的要因、経済変動に強い、バランスのとれた産業構造の構築を目指し、「航空宇宙」、「医療福祉機器」、「医薬品」、「食料品」、「次世代エネルギー」の5分野を本県の成長分野と位置付け、重点的に企業の集積並びに規模拡大を図りる。また「観光」を基幹産業と位置付け、観光消費額の拡大を図りる。そして、「雇用」面では、あらゆる人が働き手として活躍できる環境づくりを目指す。そのなかで、最重要プロジェクトのひとつである「観光産業の基幹産業化」において県営公園の誘客強化が位置づけられている。

3 現況把握

(1) 自然特性

ア. 気候

平成記念公園が位置する美濃加茂市の気象データの変化は以下のとおりとなっている。

平均気温は、平成に入ってから 14 度台後半から 15 度台前半で推移している。

年間降水量は、台風や集中豪雨の影響により、年ごとにばらつきがみられる。

表 美濃加茂市の気象の変化

区 分	気 温			降 水 量		風 速		
	平 均 (℃)	最高(極) (℃)	最低(極) (℃)	年(月)計 (mm)	日最大 (mm)	平均風速 (m/s)	最大風速 (m/s)	最大風速の 風 向
昭和 4 0 年	14.5	37.9	△ 7.7	1,809	111	...	4	NW
4 5	14.8	38.0	△ 8.0	1,692	(181)	...	2	E
5 0	(16.5)	(37.2)	(△ 6.2)	2,088	140	...	11	S
5 5	13.5	34.9]	△ 8.0	2,010	79	1.4	11	...
平成 6 0	14.4	36.0	△ 8.7	2,139	97	1.4	9	NW
2	15.2	36.9	△ 6.0	2,081	114	1.4	9]	NW
7	14.0	37.5	△ 6.8	1,578	78	1.5	9	NW
8	14.0	36.8	△ 7.9	1,471	77	1.5	9	NW
9	14.7	35.1	△ 6.2	1,749	118	1.4	9	SSW
1 0	15.9	35.3	△ 6.8	2,189	110	1.3	11	SSW
1 1	15.1	35.2	△ 7.3	1,796	92	1.3	9	NW
1 2	15.1	36.8	△ 6.0	1,583	216	1.5	9	NNW
1 3	14.9	38.0	△ 4.9	1,426	94	1.4	9	NW
1 4	15.1	37.2	△ 5.3	1,536	119	1.5	8	WNW
1 5	14.9	35.6	△ 7.6	1,984	70	1.4	10	WNW
1 6	15.9	37.9	△ 4.9	2,075	133	1.4	13	S
1 7	14.9	36.7	△ 4.8	1,455	99	1.4	10	S
1 8	15.2	37.9	△ 6.3	1,733	105	1.5	11	WNW
1 9	15.2	39.0	△ 4.1	1,499	87	1.7	10	WNW
2 0	15.0	37.4	△ 5.3	1591.0	100.0	1.6	10	WNW
2 1	15.3	35.1	△ 4.7	2201.0	74.5	1.6	10.2	WNW
2 2	16.3]	38.4	△ 6.4]	2478.0]	116.5]	1.7]	10.6]	WNW
2 3	15.0	37.6	△ 5.5	1846.0	130.0	1.7	10.1	WNW
2 4	14.8	37.5	△ 7.1	1646.0	64.0	1.8	13.4	SSE
2 5	15.3	38.1	△ 5.0	1506.5	95.5	1.8	11.6	NW
2 6	15.0	38.5	△ 4.9	1723.0	82.5	1.8	11.6	SSE
2 6 年 1 月	3.1	13.1	△ 4.9	47.5	24.0	1.7	9.4	NW
2	4.2	17.0	△ 4.4	105.0	27.5	2.2	9.8	WNW
3	8.1	21.4	△ 4.4	193.5	82.5	2.3	10.1	WNW
4	13.7	26.2	1.0	84.0	33.5	1.9	10.4	NW
5	18.7	33.6	5.0	151.5	74.0	2.2	11.0	WNW
6	23.4	35.8	14.7	155.5	68.0	1.6	8.7	WNW
7	26.5	38.5	18.9	131.5	21.5	1.6	7.8	SSE
8	26.2	35.5	19.9	344.0	76.0	1.6	11.6	SSE
9	22.6	32.6	12.9	159.0	49.5	1.6	5.6	NW
1 0	17.9	29.5	4.7	141.0	71.5	1.6	9.2	WNW
1 1	11.8	23.3	1.8	112.0	41.0	1.4	8.9	WNW
1 2	3.8	14.9	△ 4.3	98.5	18.5	1.7	9.6	WNW

資料：地域気象観測年報
地域気象観測月報
(岐阜地方気象台)

1) 「△」は、氷点下であることを示す。
2) 昭和50年以前の「()」は期間中に欠測があることを示す。
3) 昭和55年以降の「) 」は「準正常値」、「] 」は「資料不足値」を示す。
4) 「...」は、観測値がないことを示す。
5) 昭和50年以前は区内気象観測所の観測値、昭和55年以降は地域気象観測所の観測値を示す。(統計の接続はされていない。)
6) 昭和50年以前の最大風速は、風力で示す。
7) アメダスデータ等統合処理システムの運用に伴い、降水量は平成20年3月26日から1mm単位から0.5mm単位になった。また、最大風速(10分間平均風速の最大値)は平成20年9月19日から1m/s単位から0.1m/s単位になった。
8) 遡って修正したため、過去の公表データと合わない箇所がある。

イ. 地形・地質

平成記念公園は、美濃加茂市中部の海拔約 120m～180m の丘陵地に位置している。地質は、母岩が中新統の凝灰角礫岩や凝灰質砂岩などの固結堆積物から成っている。

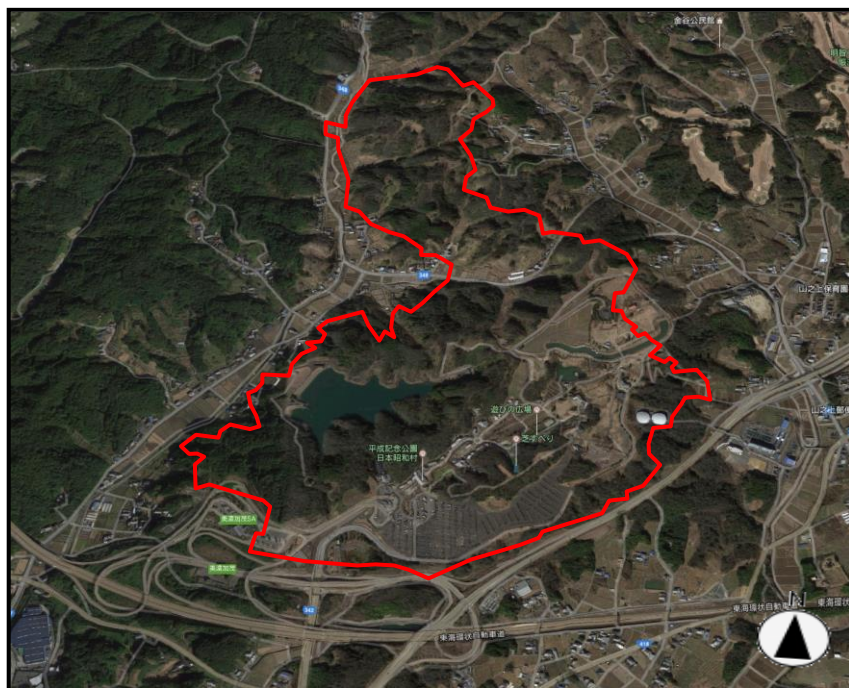


図 平成記念公園周辺の地形の俯瞰写真（出典：Google Earth）

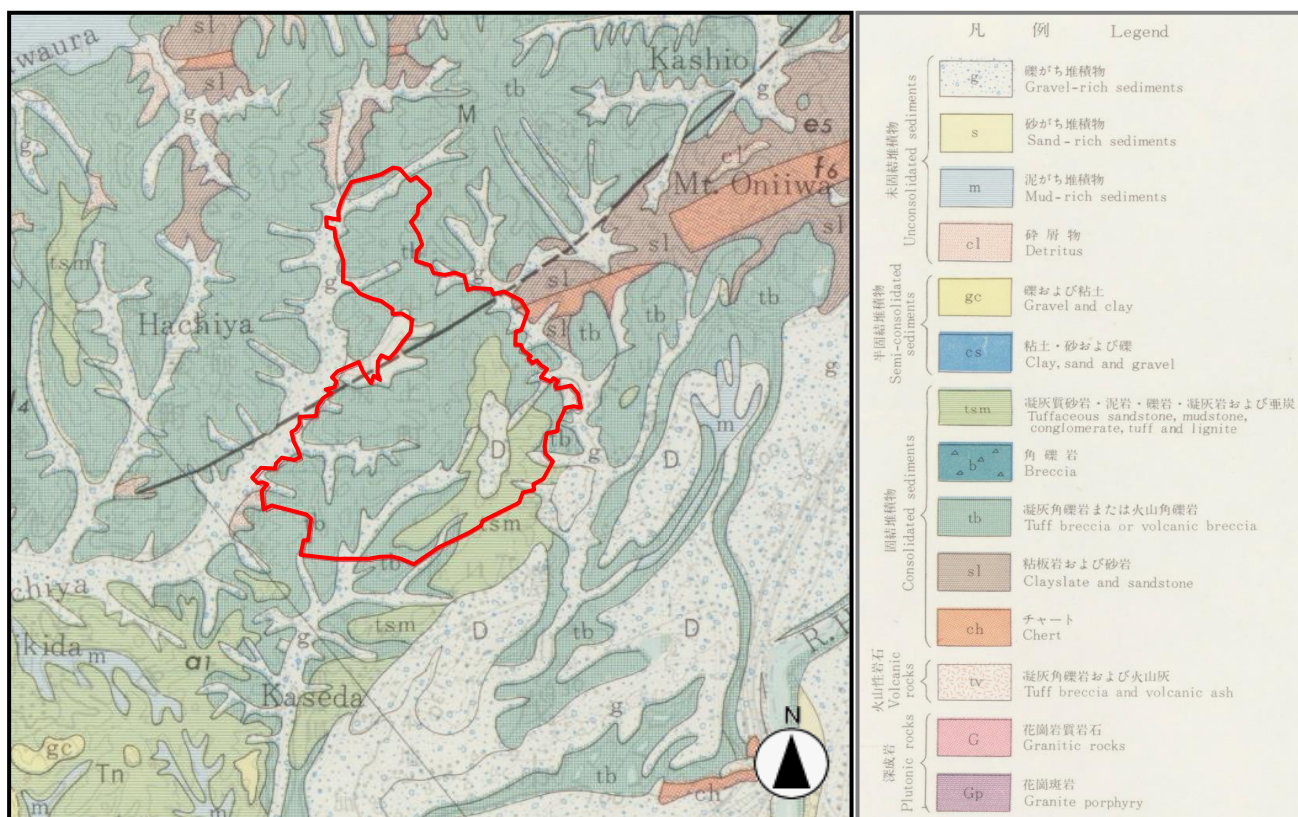


図 平成記念公園周辺の地質（出典：国土交通省 国土調査（土地分類基本調査・水基本調査等）ホームページ）

ウ. 植生

美濃加茂市が中山道の宿場町として栄えてきたため、植物の生態にも人為的な変化がみられ、低地や丘陵地は田畑や果樹園になっている。森林においても、かつてはシイの常緑樹林であったが、今ではほとんど一次的自然林はなく、二次的な常緑広葉樹林に変わっている。

平成記念公園周辺は、モチツツジ-アカマツ群落とコナラ群落が代表的な植生として分布している。

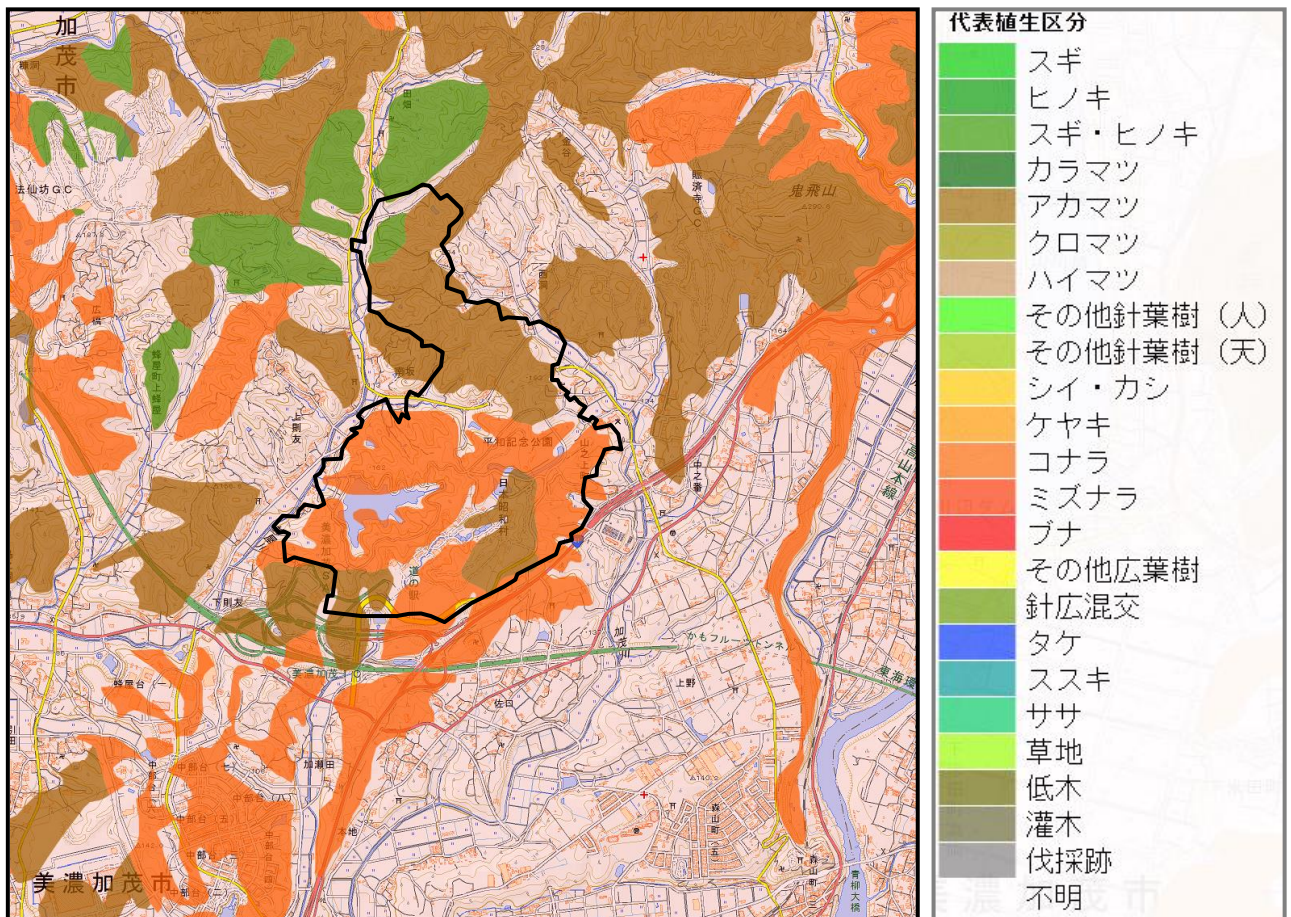


図 平成記念公園周辺の植生 (出典：岐阜県統合型 WebGIS)

エ. 災害ハザード

平成記念公園の北側未供用区域には、土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）及び土砂災害警戒区域（イエローゾーン）が複数箇所存在する。

土砂災害特別警戒区域においては、開発等を行う場合は県知事の許可が必要となるとともに、土砂災害などで想定される衝撃の力に耐えられるよう建築物の構造が規制されている。

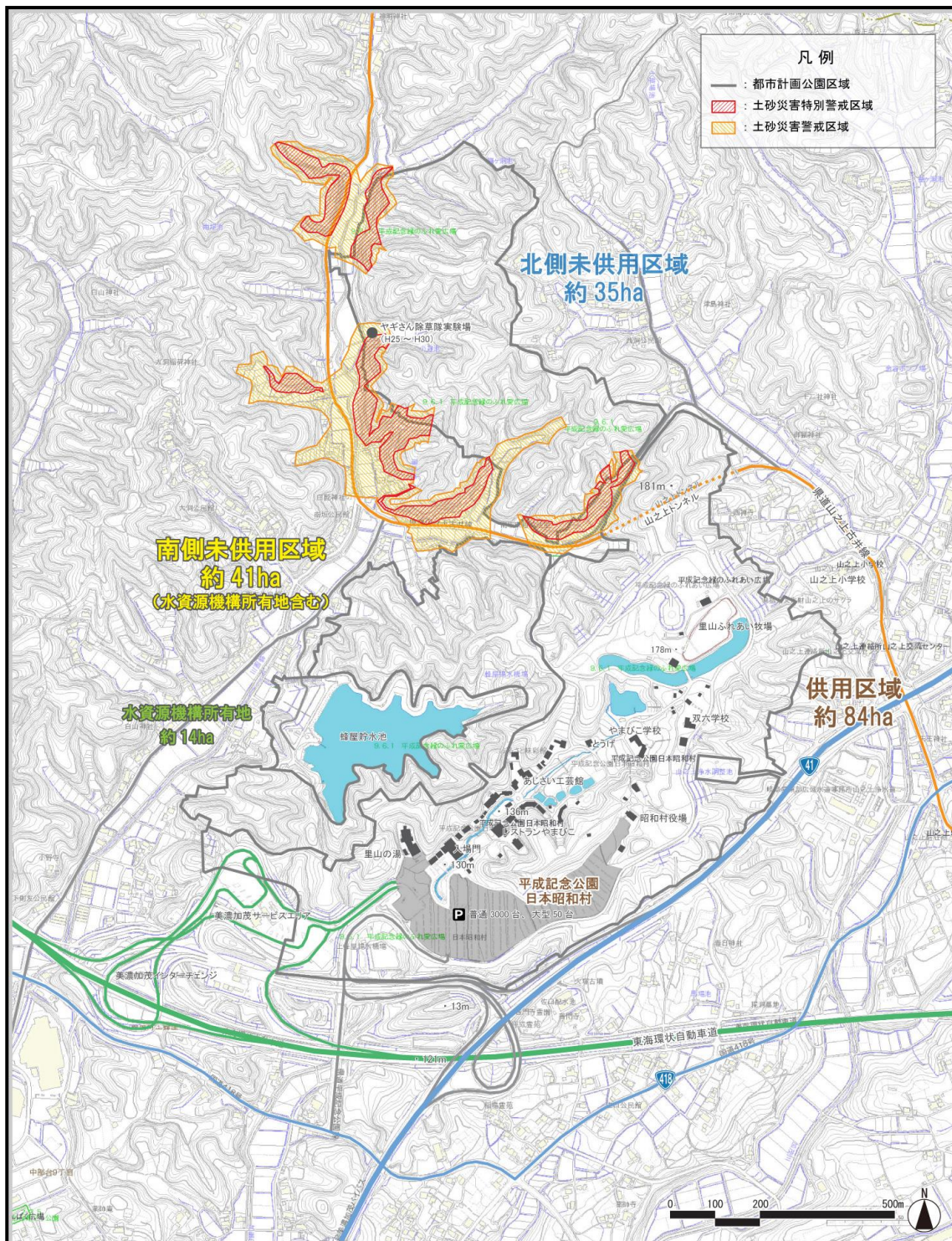


図 平成記念公園周辺の土砂災害警戒区域指定

(2) 社会特性

ア. 立地状況

平成記念公園がある美濃加茂市は、岐阜県中南部の「可茂地域」にあって、北は飛騨や奥美濃の山並に面し、南は木曽川沿いの肥沃な低地である濃尾平野に位置している。

立地としては、飛騨や奥美濃の玄関口に位置しているため、古くから交通の要衝として宿場町を形成してきた。

主要な交通網としては、鉄道はJR 高山本線、JR 太多線、長良川鉄道、道路は国道 21 号、国道 41 号、国道 248 号、東海環状自動車道（東回りルート）などがある。

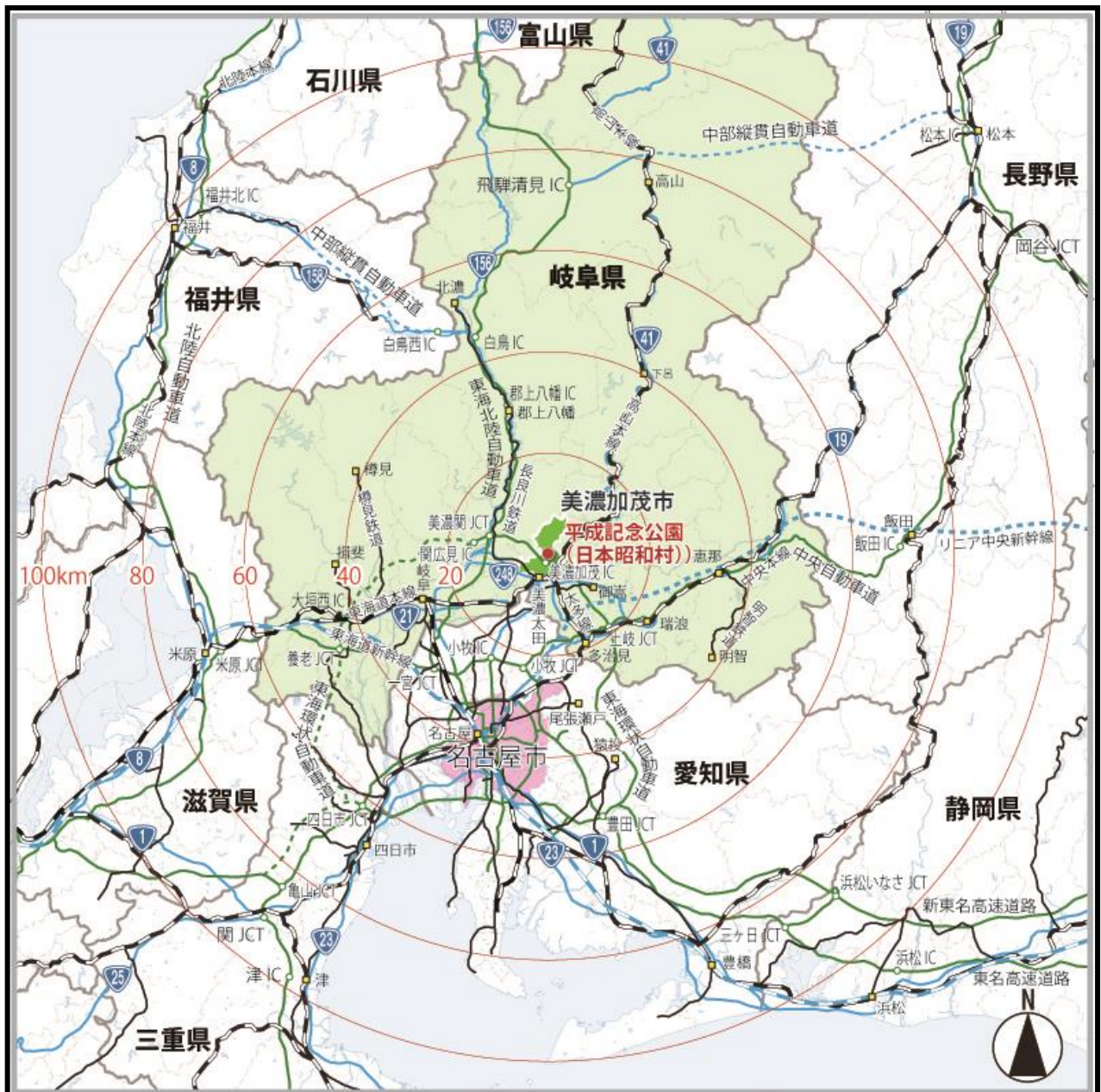


図 中京圏における平成記念公園の立地状況

イ. 岐阜県の人口推移

岐阜県の人口は、平成12年の約211万人をピークに、今後も減少していくものと推計されている。

このような人口減少社会に立ち向かうため、平成27年度に『清流の国ぎふ』創生総合戦略を策定し、地域の将来を支える人を岐阜に留めるとともに、岐阜に呼び込むため、移住定住の促進、企業誘致や国内外からの観光誘客等の施策を展開している。

なお、岐阜県への移住者は年々増加しており、平成28年度に市町村の支援施策等を利用して移住された方は、平成22年以降、最高の1,310人となっている。

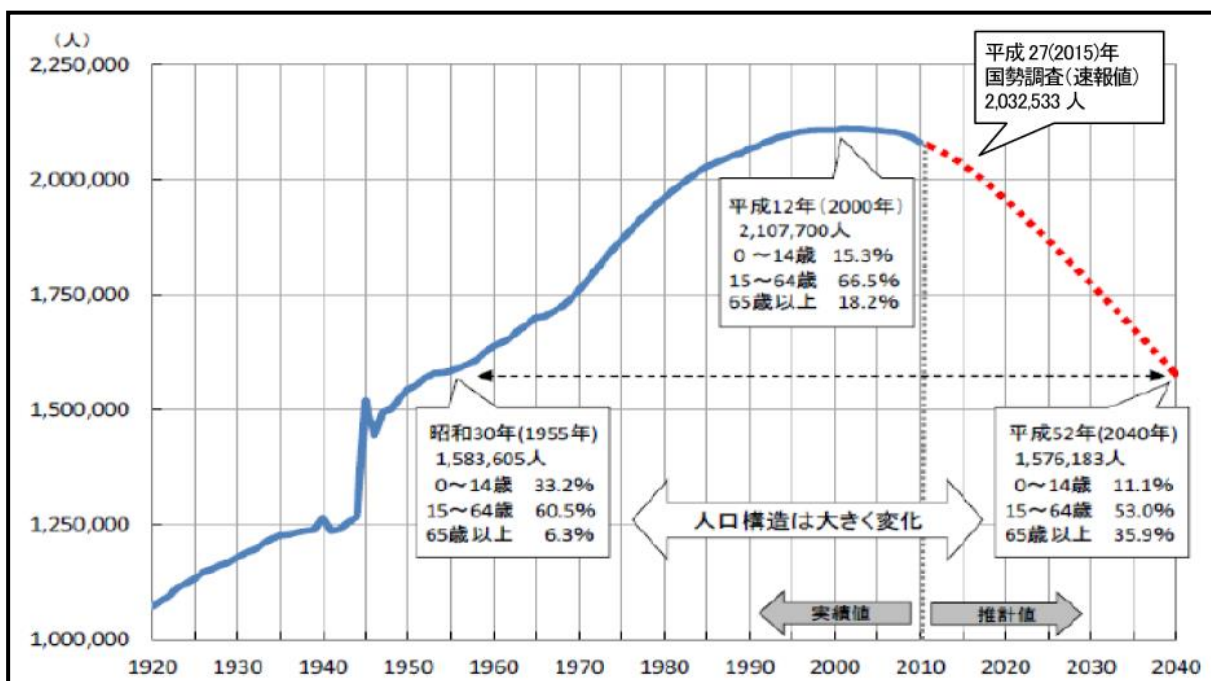


図 岐阜県の人口推移と将来の見通し (出典：岐阜県人口ビジョン (2015年10月))

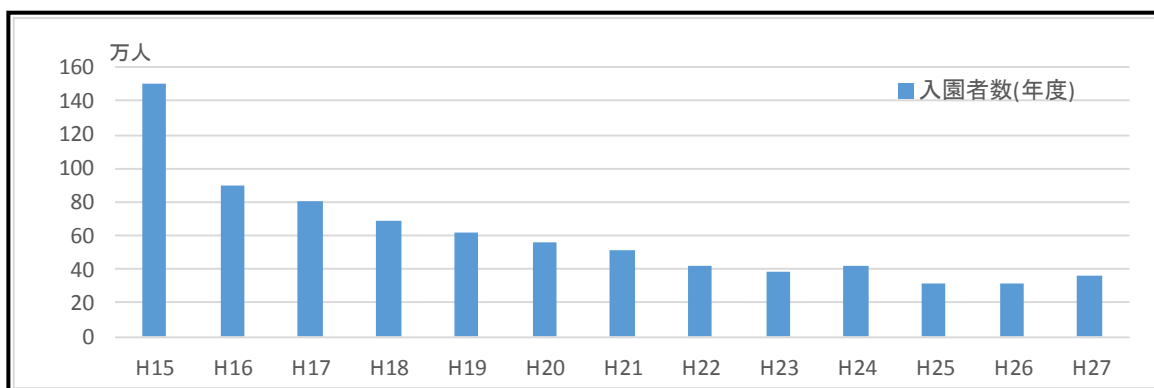
(3) 公園利用状況

年間利用者数は、開園時 150 万人(H15 年度)、90 万人(H16 年度)をピークに長期に渡り年々減少傾向を示している。

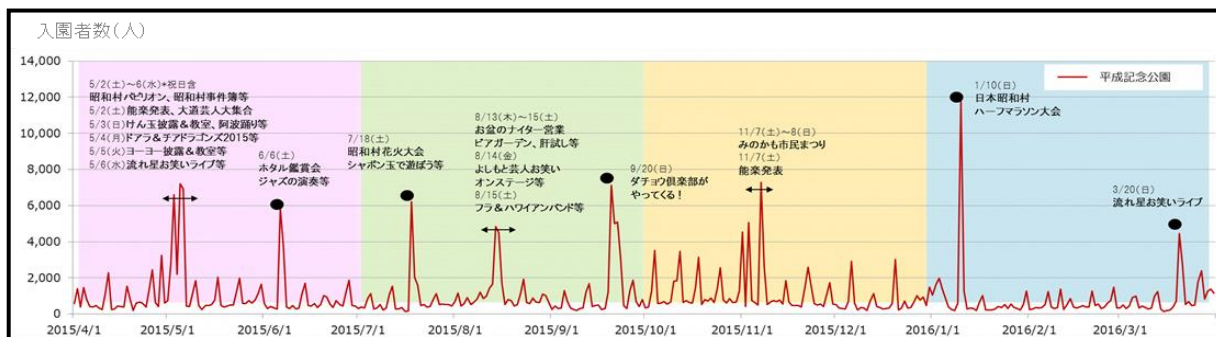
近年の年間利用者数は 30 万人前後で推移しており、平成 27 年度は 36.6 万人(里山の湯の利用者の約 10 万人を含む)となっている。

入園者数の季節性の変動は比較的少なく、イベントの開催日に入園者が増加する傾向がある。

なお、現在は無料開園日を年に 2 回(みのかも市民まつり、日本昭和村ハーフマラソン)設定している。



年別入園者数推移 (H15～27 年度)



日別入園者数推移 (H27 年度)

(4) 計画地の森林状況

計画地の「里山」としての空間特性を把握するために、里山の成り立ちの基本的な要素を元に土地利用区分を行った。

計画地は「洞(ほら)」と呼ばれている谷が細かく刻まれており、この「洞」単位の土地利用が行われていた。この計画地の森林は、60 年近く里山としての利用が停止しており、竹林の侵出など荒廃が進んでいる。このため、竹林伐採、里山林の萌芽更新による森林の若返りを進める必要がある。

今後は、里山林と草地を合わせた里山の様々な体験活動を実施できる可能性が十分にあることから、市民団体との協働体制を構築する仕組みづくりを進め、里山林の再

生を図るべきである。

計画地の空間配置計画（ゾーニング）においては、このような地域固有の土地利用形態を活かすとともに、里山を持続的に維持管理してきたシステムや技術を体験プログラム等として活用する。

計画地の里山は放置され荒廃が目立つが、スギ植林や竹林のエリアは限られており、落葉広葉樹二次林が主体であるため、維持管理を行うことで、里山林や林床の花園（ツツジ等）が再生可能と考えられる。次表のようにエリア毎に植生の概況を整理し、里山利用のポテンシャルをまとめた。

エリア	植生の概況	里山利用のポテンシャル
北側 未供用 区域	ケネザサーコナラ群集が主体の落葉広葉樹二次林。谷部にモザイク状にスギ植林や竹林が分布する	<ul style="list-style-type: none"> ・全域にまとまって残された落葉広葉樹二次林は、丘陵地の里山林として再生し活用可能（美濃加茂市が一部実施） ・スギ植林の間伐、竹林の伐採 等 ・伐採後の選択的管理による花の名所づくり
南側 未供用 区域	蜂屋調整池の周囲にケネザサーコナラ群集を主体とする落葉広葉樹二次林が分布。北側にはスギ植林や竹林、低木群落分布する	<ul style="list-style-type: none"> ・蜂屋調整池と供用区域の間の尾根部と北側の落葉広葉樹二次林が活用可能 ・スギ植林の間伐、竹林の伐採 等 ・伐採後の選択的管理による花の名所づくり
供用 区域	公園部の周囲にケネザサーコナラ群集を主体とする落葉広葉樹二次林がバッファーとして残置。公園と樹林の境界部には路傍・空地雑草群落分布する	<ul style="list-style-type: none"> ・公園周囲の尾根部の落葉広葉樹二次林 ・公園谷部の田畑の土地利用と合わせて低地～丘陵～採草地の里地として活用 ・草地については、ススキ以外にも山野草の導入を検討

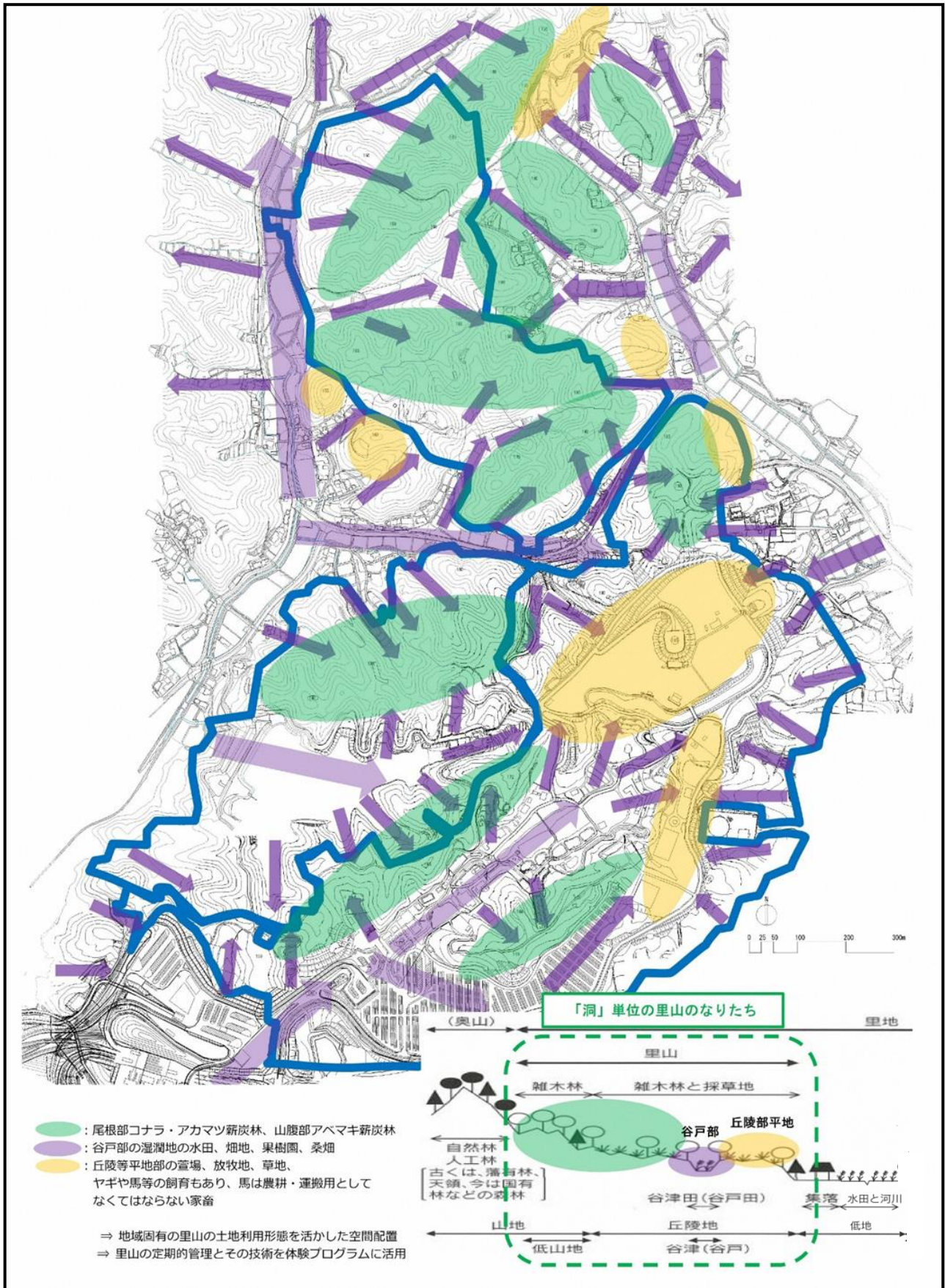


図 計画地及び周辺の地形と里山の構造

(5) 景観特性

平成記念公園の景観の特性を把握するため、園内各所にて写真を撮影(下図①～⑳)し、その把握を行った。

公園の現在の供用区域は丘陵地の里山の南斜面に整備されているが、周辺の地形に起伏があるため、中遠景から全景を望める視点場はほとんど存在していない。南側未供用区域、北側未供用区域においても、周辺の集落や道路の土地の方が低いため、周囲から区域内の里山の斜面が望めるのみとなっている。

したがって景観特性としては、近景から直近の里山や郷の景観を望むことが主となる、限定された景観特性を有していると言える。

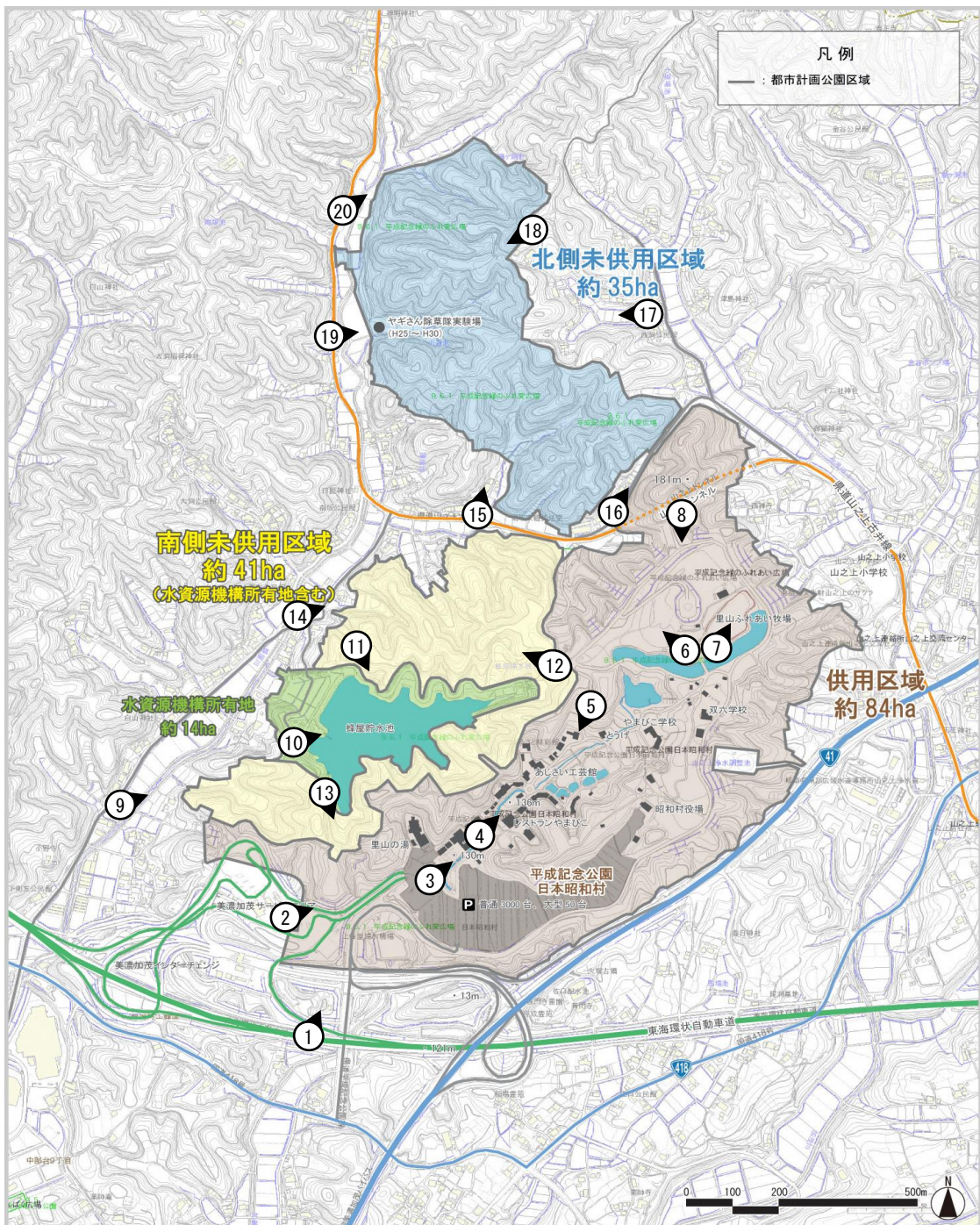


図 園内写真撮影箇所



①東海環状自動車道からの景観。手前の山に隠れて公園は見えない



②サービスエリア東端から、わずかに公園の入場門や駐車場が望める



③入場門前。地形的な制約より奥行きある景観は望めない



④昭和30年代の良好な景観を再現している



⑤公園内の高台から南側を望む。奥行き感のある景観は望めない



⑥牧場の芝生広場。広がりのある良好な景観を有する



⑦牧場の全景。牧場の奥には恵那山の美しい稜線が広がる



⑧供用区域の最も高台から南側を望む。手前の牧場の先は望めない



⑨周辺の道路から南側未供用区域を望む。西斜面しか見えない



⑩蜂屋調整池の全景。外周に桜並木もあり、四季折々の風景が楽しめる



⑪蜂屋調整池の外周には管理用通路が一部整備され、池を周遊できる



⑫視点⑫～⑬間は、管理用通路のルートはあるものの未整備



⑬池畔の木立を抜ける管理用通路。緑陰の良好な景観を有する



⑭周辺の道路から南側未供用区域を望む。西斜面しか見えない



⑮集落の奥の北側未供用区域を望む。南斜面しか見えない



⑯供用区域と北側未供用区域の間を通る道路。土砂災害の危険がある



⑰集落の奥の北側未供用区域を望む。東斜面しか見えない



⑱北側未供用区域の高台から南側を望む。眺望の広がりはない

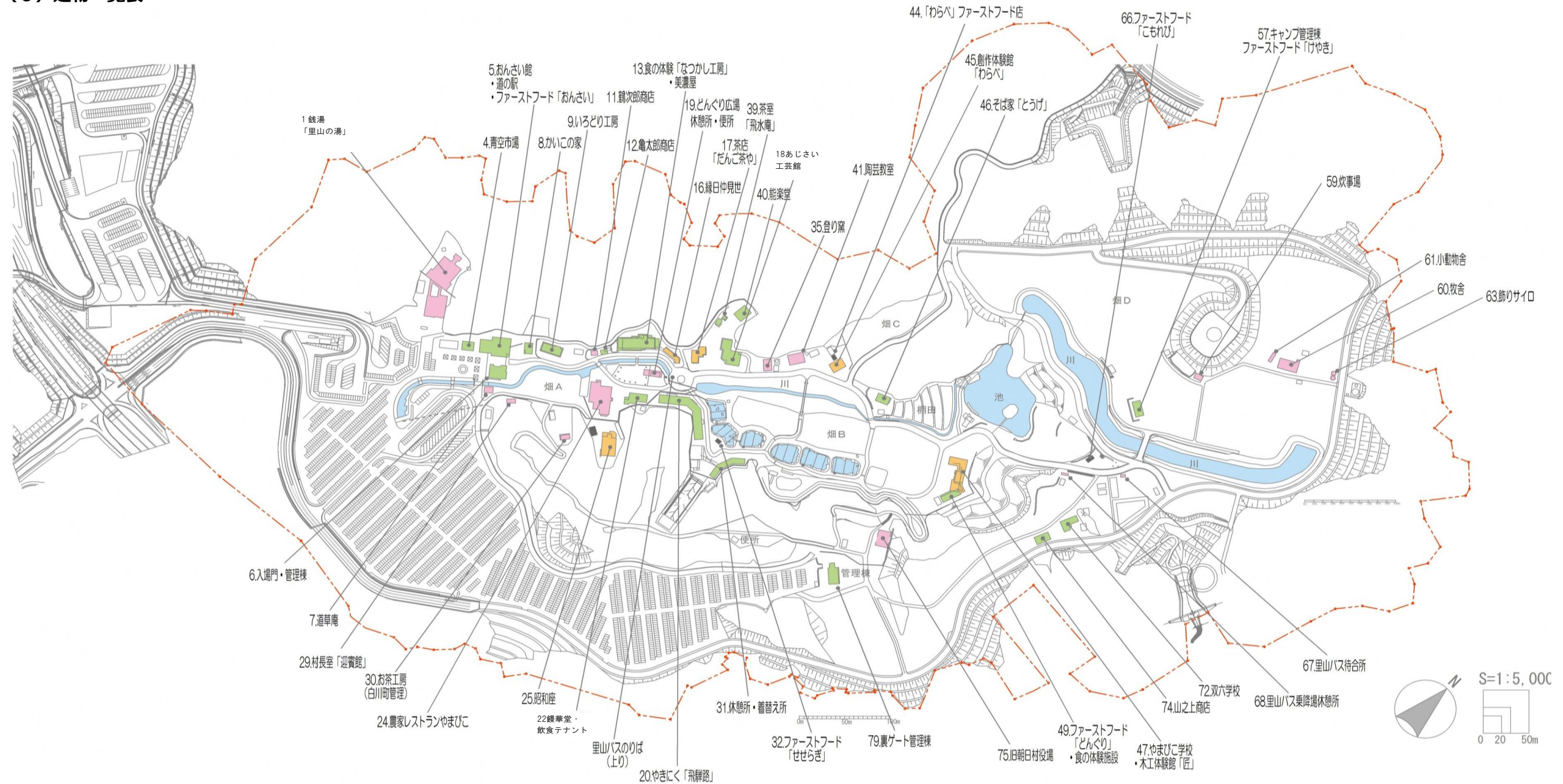


⑲周辺の道路から北側未供用区域を望む。西斜面しか見えない



⑳周辺の道路から北側未供用区域を望む。西斜面しか見えない

(6) 建物一覧表



○平成記念公園主要施設一覧



番号	施設名	現在の用途
1	銭湯里山の湯	銭湯
	里山食堂	飲食施設
4	青空市場	物販施設
5	おんさい館	物販施設
5	道の駅	物販施設、情報発信施設
5	ファーストフード「おんさい」	飲食施設
6	入場門・管理棟	入場門・管理棟
7	道草庵	休憩所
8	かいこの家	展示施設
9	いろどり工房	体験施設・物販施設
11	鶴次郎商店	体験施設・物販施設
12	旧亀太郎商店	休憩施設
13	食の体験なつかし工房	体験施設
13	美濃屋	物販施設
16	縁日仲見世	物販施設・展示施設
17	だんご茶や	飲食施設
18	あじさい工芸館	飲食施設

番号	施設名	現在の用途
19	どんぐり広場休憩所・便所	ステージ・トイレ
20	やきにく「飛驒路」	飲食施設
22	饅華堂	飲食施設
22	飲食テナント	飲食施設
24	農家レストランやまびこ	飲食施設
25	昭和座	芝居、映画鑑賞施設
39	茶室「飛水庵」	茶室
40	能楽堂	能楽堂
29	村長室「迎賓館」	応急救護室
30	お茶工房(白川町管理)	体験施設
31	休憩所	体験施設
31	着替え所	着替え施設
32	ファーストフード「せせらぎ」	飲食施設
35	登り窯	登り窯
41	陶芸教室	体験施設
44	「わらべ」ファーストフード店	飲食施設
45	創作体験館「わらべ」	体験施設

番号	施設名	現在の用途
46	そば屋「とうげ」	飲食施設
47	やまびこ学校	展示見学施設
47	木工体験館「匠」	体験施設
49	ファーストフード「どんぐり」	飲食施設
49	食の体験施設	炊事施設
57	キャンプ管理棟	体験施設
57	ファーストフード「けやき」	飲食施設
59	炊事場	炊事場
60	牧舎	牧舎
61	小動物舎	動物舎
63	飾りサイロ	倉庫
66	ファーストフード「こもれび」	飲食施設
67	里山バス待合所	バス待合所
68	里山バス乗降場休憩所	バス待合所兼休憩所
72	双六小学校	体験施設
74	山之上商店	飲食施設
75	旧朝日村役場	展示見学施設
79	裏ゲート管理棟	管理ゲート

番号	施設名称	外観写真	現在の用途	内容	延床面積 (㎡)
1	銭湯里山の湯		銭湯	露天風呂・壺湯・替り湯・寝湯・腰掛湯・サウナ	108.72
	里山食堂		飲食物販	(飲食) そば、ビール 等 (物販) 地元みやげ物	1071.66
4	青空市場		物販	地元特産物や野菜 等 ※JA委託	130.00
5	おんさい館		物販	岐阜県特産品	484.42
	道の駅		展示	観光案内所	
	ファーストフード「おんさい」		飲食	珈琲、ジュース、アイスクリーム 等	
6	入場門管理棟		事務所	事務所、切符売場、会議室、控室、従業員便所、物置 等	433.04

番号	施設名称	外観写真	現在の用途	内容	延床面積 (㎡)
7	道草庵		休憩	休憩所	49.68
8	かいこの家		展示	かいこ・山繭飼育展示、昭和時代の家具 等	110.00
9	いろどり工房		体験 物販	(体験) 万華鏡、染色、機織り (物販) 和雑貨	205.66
11	鶴次郎商店		体験 物販	(体験) せんべい焼き (物販) 土産用せんべい	28.98

番号	施設名称	外観写真	現在の用途	内容	延床面積 (㎡)
12	旧亀太郎商店		休憩	休憩所	39.74
13	食の体験 なつかし 工房		体験 便所	(体験) ピザ、豆腐、こんにゃく、 アイスクリーム作り 等 (便所) <男子> 小 3、大(洋)1 <女子> 大(和)3、(洋)1 <多目的>1	505.01
	美濃屋		物販	昭和の駄菓子 プロマイド	
16	縁日 仲見世		展示 物販	(展示) 昭和の居間 (物販) 名誉村長グッズ	104.88

番号	施設名称	外観写真	現在の用途	内容	延床面積 (㎡)
17	だんご茶や		飲食 便所 授乳室	(飲食) だんご、五平餅、わらびもち、ぜんざい、珈琲 等 (便所) ＜男子＞小 1、大(洋)1 ＜女子＞大(洋)2 授乳室	191.91
18	あじさい工芸館		体験 展示 便所	(体験) そば打ち (展示) 写真 等 (便所) ＜男子＞小 3、大(洋)1 ＜女子＞大(洋)4 ＜多目的＞1	424.81
19	どんぐり広場休憩所 便所		休憩 便所	(休憩) 休憩所・待合所 (便所) ＜男子＞ 小 3、大(和)1、(洋)1 ＜女子＞ 大(和)2、(洋)2 ＜多目的＞1	
20	やきにく「飛驒路」		飲食 休憩 便所	(飲食) 焼肉 (休憩) 休憩所・待合所 雨天時催事等にも利用 (便所) ＜男子＞ 小 4、大(和)1、(洋)1 ＜女子＞ 大(和)3、(洋)2 ＜多目的＞1	740.09

番号	施設名称	外観写真	現在の用途	内容	延床面積 (㎡)
22	饅華堂		物販	キャラクターグッズ にんにくせんべい 等	231.03
	飲食テナント		飲食	パン、ポテトフライ	
24	農家レストラン やまびこ		飲食 便所	(飲食) 美菜バイキング カレー、ラーメン、丼物 (便所) <男子> 小2、大(洋)1 <女子> 大(和)1、(洋)1 <多目的>1	714.63
25	昭和座		催事	ステージ、客席(80席)、 前室ホール、倉庫	352.95

番号	施設名称	外観写真	現在の用途	内容	延床面積 (㎡)
39	茶室 「飛水庵」		体験	茶会、呈茶	54.90
40	能楽堂		催事	能楽教室	186.48

番号	施設名称	外観写真	現在の用途	内容	延床面積 (㎡)
29	村長室 「迎賓館」		事務所	応急救護室 事務職員休憩所	54.65
30	お茶工房		体験	手もみ体験 お茶の製造	54.65
31	休憩所 着替え所 便所		休憩 着替え 便所	(休憩) 休憩所 (着替え) じゃぶじゃぶ池利用者等 の着替え所 (便所) <男子> 小 6、大(和)1(洋)1 <女子>大(和)6(洋)3 <多目的>1	80.24
32	ファースト フード 「せせらぎ」		飲食	かき氷等 ※夏季等期間限定	24.73

番号	施設名称	外観写真	現在の用途	内容	延床面積 (㎡)
35	登り窯		体験	作陶イベント時利用	89.70
41	陶芸教室		体験	折鶴作陶、手びねり 電動ろくろ、光る泥だんご	201.22
44	「わらべ」 ファースト フード店		飲食 (休止)	※現在未使用	24.73
45	創作体験 館「わらべ」		体験	昔なつかしおもちゃ作り	168.93

番号	施設名称	外観写真	現在の用途	内容	延床面積 (㎡)
46	そば屋 「とうげ」		飲食	そば	129.40
47	やまびこ 学校		展示	昭和パピリオン 季節に応じた展示	693.77
	木工体験 館「匠」		体験 (休止)	※やまびこ学校に統合	
49	ファースト フード 「どんぐり」		飲食 便所	(飲食) から揚げ、アイスクリーム ※土日祝日営業 (便所) <男子>小 6、大(洋)2 <女子>大(和)5(洋)3 <多目的>1	98.00
	食の体験 施設		体験	デイキャンプ (カレーづくり体験 等)	
57	キャンプ 管理棟		着替え シャワー室 便所	(着替え) キャンプ利用者用の着替 え所、シャワー室 (便所) <男子>小 5、大(洋)2 <女子>大(和)3(洋)4 <多目的便所>1	161.47
	ファースト フード 「けやき」		飲食	みたらし団子 から揚げ 等 ※土日祝日営業	

番号	施設名称	外観写真	現在の用途	内容	延床面積 (㎡)
59	炊事場		炊事場 (キャンプ用)	デイキャンプ利用者用の炊事場	54
60	牧舎		展示	アルパカ、ヤギ、ヒツジ、ウマ、ウサギ、モルモット	258.13
61	小動物舎		展示	ミニブタ、ウコッケイヤギ	41.40
63	飾りサイロ		倉庫	倉庫、ゴミ集積場	30.40

番号	施設名称	外観写真	現在の用途	内容	延床面積 (㎡)
66	ファーストフード「こもれび」		飲食	から揚げ 等 ※花火・ハーフマラソン等の催事時に営業	37.4
67	里山バス待合所		休憩所	里山バス券売所、待合所	20.00
68	里山バス乗降場休憩所		休憩所	里山バス乗降場、休憩所	50.10
72	双六小学校		体験	オルゴール教室 籐クラフト教室 等 ※土日祝日営業	372.64

番号	施設名称	外観写真	現在の用途	内容	延床面積 (㎡)
74	山之上商店		飲食	うどん・どぶろくの製造・販売 ※土日祝日営業	249.53
75	旧朝日村役場		展示	旧朝日村役場 当時の執務室を再現	378.33
79	裏ゲート管理棟		事務所	管理ゲート	265.40

4 公園の現状分析

「基本戦略」において、4つの県営公園について都市公園の活性化を目標とした戦略計画の構築のために、外部環境や内部環境を強み（S）、弱み（W）、機会（O）、脅威（T）の4つのカテゴリで整理する要因分析（SWOT分析）が行われている。

平成記念公園では、以下のとおり整理されている。

強み（S）	弱み（W）
<ul style="list-style-type: none"> ・ハイウェイオアシスとして整備され、美濃加茂サービスエリアからも直接入園することが可能であり、自家用車等によるアクセスが非常に良い。 ・駐車台数は約 3,000 台を有し、基本戦略の対象となる4公園の中で最大。 ・「昭和の里山」をイメージして炭焼き小屋等の公園施設が整備されている。 ・家族連れでの来園が多い。 ・園内には約 40 棟の建物があり、様々な体験プログラムが提供されている。 ・入園ゲートの外に、銭湯や青空市場という特徴的な施設を有している。 ・園内には牧場もあり、動物の触れあい体験ができる。 ・製造業の拠点でもある地元美濃加茂市は定住人口の増加が見込まれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時代をテーマとする近隣のテーマパークに比べて「昭和」の時代の特色を出しきれておらず、有料施設として期待感に込えられていない。 ・入園料があり、さらに園内の体験施設がほぼ有料のため、特に家族連れの利用者にとって割高感が強い。 ・有料施設として再訪したいと思わせる魅力が乏しいため、リピーター率が低い。 ・園内にある能楽堂、茶室等の施設を活用しきれていない。 ・園内の森林は里山として管理されておらず、また、里山が公園の構成要素として十分に活用されていない。 ・入場口から登坂路となるため、全体を見渡せず、回遊性を持つ動線となりにくい構造である。 ・公共交通によるアクセスが弱い。 ・高速道路からの進入路が分かりにくい。
機会（O）	脅威（T）
<ul style="list-style-type: none"> ・東海環状自動車道の全線開通による関西圏からのアクセス性の向上。 ・未供用地における間伐や下草刈り等の里山整備活動の展開可能性。 ・新東名高速道路の豊田東 JCT～浜松いなさ JCT 間の開通による静岡方面からのアクセス性の向上。 ・東京オリンピック・パラリンピック開催に伴うインバウンドの拡大機会の到来。 ・リニア中央新幹線開業による交流人口増。 ・時代が進むにつれ「昭和」を知る世代が少なくなるため、「昭和」という時代を伝える意義が強まる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ニーズの多様化等、社会変化への対応。 ・公園施設の老朽化の進行とともに、施設プログラムが陳腐化。類似施設との競合。 ・入園料で施設運営を行っているが、現状の年間入園者数がさらに下回ると運営が立ち行かない恐れがあり、サービス水準も下がる可能性が高い。 ・里山が長年放置されたまま老齢林化しているため萌芽力が衰え、林床の植生が単純化するなど劣化してきている。 ・「昭和」というコンセプトに郷愁を感じる世代の減少。

注）岐阜県都市公園活性化基本戦略（参考資料編）より一部改変

「基本戦略」における「SWOT分析」にもとづき、平成記念公園の活性化に向けた方向性や取るべき方策を見出すために「クロスSWOT分析」を行った結果を以下に示す。

- ・強み（S）を活かして機会（O）を攻略し、弱み（W）を克服して機会（O）を攻略
- ・強み（S）を活かして脅威（T）に対抗し、弱み（W）と脅威（T）の最悪のシナリオを回避

	強 み（S）	弱 み（W）
機 会 (O)	強 み（S）× 機 会（O） 強みを活かして機会を攻略	弱 み（W）× 機 会（O） 弱みを克服し機会を攻略
	<p>【里山の保全・活用および継承をベースにしながら、広域交通ネットワークを活用した展開を図る】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園周辺を含めた里山としてのポテンシャルを把握したうえで、「里山の生態系」としての整理と、それに基づく体験プログラムを充実させる。 ・例として、未供用地における間伐や下草刈り等の里山活動の市民レベルでの展開や、「森のようちえん」による子育て世代を担う人材の育成、木質バイオマスの活用や、「匠の技」の伝承体験や、園内の牧場において飼育されている「馬」を活用し、「ホース・トレッキング」等への展開を行い、環境教育プログラムの充実を図るとともに、里山公園として競合施設との差異化を進め、新東名高速道路の静岡方面からのアクセス性の向上や、東京オリンピック・パラリンピック開催に伴うインバウンド増大の受け皿、その後のリニア中央新幹線開業による交流人口増に向けた広域観光を展開する。 	<p>【無料化を含めた公園スキームの見直し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入園料があり、さらに園内の体験施設がほぼ有料となっており、特に家族連れの利用者にとって割高感が強いいため、公園運営スキームの見直しにより、「入園無料化」による運営へ転換する。 ・広域ネットワークの立地ポテンシャルを活かした地域の情報発信機能の強化を図り、関連施設への回遊を増加する。 ・入場口から登坂路となるため、全体を見渡せず、回遊性を持つ動線となりにくい構造であるため、広大な敷地となっている園内をクラスター化し、滞在時間の設定にメリハリをつけながらゾーン毎の特色化を図る。 ・「昭和」のテーマパークから「昭和」の里山を切口として、園内森林のストックを活用し里山を再生し、その循環利用システムを学び、現代の里山利用を遊びながら体験体感できる公園とする。
脅 威 (T)	強 み（S）× 脅 威（T） 強みを活かして脅威に対抗	弱 み（W）× 脅 威（T） 弱みと脅威の最悪のシナリオを回避
	<p>【広域交通ネットワークの活用による交流人口の増加】 【美濃加茂市と連携した里山の利活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口減少（少子高齢化）の進行に対しては、広域アクセス性の向上（東海環状自動車道の全線開通、リニア中央新幹線開業等）を活かした広域観光としての機能の強化を図り、交流人口を増加させていくほか、昇龍道プロジェクトや「杉原千畝」関連施設等との連携強化により、インバウンド対策に取り組んでいく。 ・公園での里山体験利用が、公園周辺的美濃加茂市内の里山における本格的な地域活動の拡大を促し、地域と連携した里山の利活用の拠点となる。 	<p>【地域資源との連携による「清流の国ぎふ回廊」の形成】 【里山の再生と現代の循環利用の情報発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会ニーズの多様化への対応と、公園施設の老朽化の進行による陳腐化、あるいは類似施設との競合による弱体化に対しては、公園を単体としては捉えずに、周辺の優れた地域資源との連携を図り、平成記念公園を含めた県営4公園が「清流の国ぎふ回廊」を実現させる拠点としての役割を担い、県の活性化に寄与する。 ・入園料で賄う運営方式から、「入園無料化」による運営へ転換する。地元住民を含めた積極的な誘客を図り、公園のコンセプトを広く伝えることを目指す。 ・里山を再生し、「昭和の里山」から現代の里山循環利用のあり方について地域特性を魅力的に情報発信する。

5 課題

先項の公園の現況分析をふまえ、基本戦略における平成記念公園の基本コンセプトを実現化するためには、以下のような方向性が求められるといえる。

- ・未供用地を含めた新たな里山公園としての魅力の向上
- ・長期的な公園運営にむけてのコスト管理

以上より、本計画で取り組むべき方向性とそのための課題を以下のとおり設定する。

新たな里山公園としての魅力の向上

公園の持続可能な里山利用のための里山再生計画

- 現況の植生状況をふまえ、本公園における公園利用の基盤となる里山の森林・草地の整備・植生管理計画を策定し、長期的かつ計画的な取組みにより里山再生を図る。
- 里山再生計画では、公園利用の観点から様々な森林や草地の空間創出と景観形成のための整備と植生管理計画を検討し、森林と草地の利用の拡大を図る必要がある。

現代の里山における循環利用の検討

- 里山で親子で楽しめるような外遊びの充実や、園内林の管理に関する林業体験を実施するとともに、里山からの発生材・収穫物を活用したものづくり体験等や、園内林育成と連動した木質バイオマス利用モデルの構築を図るなど、多様な里山活用を検討する必要がある。

地域資源の活用と周辺施設との連携

- ハイウェイオアシス機能の強化を図り、地域の拠点施設として地域の情報発信機能を強化することで広域連携を図る必要がある。

地域産業との連携による公園内外の活性化

- 園内の木質バイオマス利用等の里山を活かした公園での様々な活動が、地域産業と連携し、新たな産業や雇用機会を誘発するなど、周辺地域の里山にも波及効果を及ぼすことをめざして、地域との経済的な結びつきを強める方策の検討が必要である。
- マルシェ、朝市などの定期イベントに加えて、地元食材による飲食物販・BBQ等の実施により地域産業との連携を図る必要がある。

長期的な公園運営にむけてのコスト管理

既存ストックの活用と整理

- 多くの施設が存在し、維持管理コストが高いため、活用施設を厳選することで、維持管理コストを縮減する必要がある。

県営公園としての料金体系の見直し

- 基本戦略において、本公園の位置づけを「観光施設」から「県営公園」に見直した。現在は、観光施設として全域を独立採算としているが他の県営公園では、設置者である県が施設維持費を指定管理料として負担している。
- 基本戦略で定めた「県営公園」としての機能を果たすための料金体系のあり方を検討する必要がある。
- 今後は地域住民が気軽に訪れることができる料金体系として、地元の公園利用の拡大を図り、地域と連携し地元で愛され誇りに思える公園を目指す必要がある。

県民総参加型の公園運営

- 市民活動グループが来園者にサービス提供できるようにするなど、様々な活動による参加型の公園運営のための活動プログラムのシステム化が必要である。

整備水準のメリハリの設定

- 公園整備にあたっては、新規に整備する施設と供用区域の既存ストックとの相乗効果を上げ、投資効果を高める必要がある。
- ハイウェイオアシスからの誘客力を高めるため、ハイウェイオアシスの近くに情報発信・物販・飲食などの施設の集中的な整備が必要である。
- 未供用区域は、アクセス、利用目的、利用頻度等を考慮した整備水準を設定する必要がある。

管理水準のメリハリの設定

- 公園全域を均一に管理していくことは現実的ではないため、ハイウェイオアシスゾーンの管理水準を高く設定する一方で、その他の区域については、他の県営公園と同程度の管理水準とする。
- 里山再生においては、森林・草地の整備・植生管理計画に基づき、森林文化アカデミーや森林組合等の地域の知恵やノウハウも活かして、長期的かつ計画的に管理していく必要がある。

第3章 活性化に関する基本的な方針

1 基本方針

基本戦略における基本コンセプトと、6つの取組方針に従い本計画を立案し、公園の整備を行う。

〈平成記念公園の基本戦略における6つの取組方針とその対応について〉

6つの取組方針		
具体的な取り組み		対応
①地域に愛される公園づくり		
地元住民が来園しやすい公園づくり		
・遠足の誘致や「木育」をはじめとする教育プログラムの開発による学校団体利用の促進	→	園内への遠足誘致や「森のようちえん」の開催にむけ、必要な環境整備を検討(例) ・森林の林床整備
・利用しやすい料金体系の検討	→	利用者満足度を向上させる料金体系へ変更を検討
・利用者サービス、ホスピタリティの向上	→	スタッフ教育や利便施設の充実を検討(例) ・入口付近にカフェを整備
子どもから高齢者まで幅広く利用される公園づくり		
・公園の魅力を端的に表す公園名称への変更	→	名称変更を検討
・遊具の拡充や「森のようちえん」等のイベントによる子どもの遊び環境の充実	→	遊具の設置や園内の環境整備を検討(例) ・入口部分と園内に大型遊具整備 ・森林の林床整備 ・子供の雨天対応の遊び場整備
・「授乳室」や「多目的トイレ」の増設等による子育て支援強化	→	整備を検討
・散策等の健康増進に資する緑地空間の提供	→	南側未供用地に園路等を整備し、森林の中を散策するルート整備を検討(例) ・乗馬体験や自然観察会を実施するルートを整備

	・わかりやすいサインの整備	→	整備を検討 (例) ・園内全体のサイン計画を取りまとめ、判り易いサインを系統的に設置
	・利用しやすい料金体系の検討 【再掲】	→	利用者満足度を向上させる料金体系へ変更を検討
	・里山の環境を活用した防災教育キャンプの推進	→	公園整備後の運用メニューでの実施を検討
	・家族で楽しめる里山体験プログラムの充実	→	森林文化アカデミー、美濃加茂市と連携して検討 (例) ・北側未供用区域での体験プログラムの実施 ・森のようちえんの実施 ・森林を活用したアスレチックであるフォレストアドベンチャーの設置
人々が集う地元イベントの誘致			
	・夏まつりや市民マラソン等、周辺自治体や地元自治会との連携イベントの拡充	→	環境フェア、市民まつり、ハーフマラソン等、今後も美濃加茂市をはじめとする周辺自治体との連携を検討
②四季折々の魅力を持つ公園づくり			
人々を魅了する景観創出			
	・記念撮影に適したポイントの整備	→	渓谷沿いなど、写真スポットの修景計画を検討 (例) ・渓谷沿いの散策路の整備 ・樹木等による修景の実施
季節を感じる植栽の展開			
	・季節に応じた里山を代表する花木による修景の展開	→	森林管理計画に合わせて、景観修景計画の方針を検討 (例) ・園内森林の低木伐採を含めた整備と、桜等の植栽を含めた植栽計画の立案、実施
	・林床管理による季節ごとの里山らしさを創出できる植栽管理	→	園内に多い薪炭林の萌芽更新を念頭に森林管理計画を検討 (例) ・林床整備 ・ツツジ類、カタクリ等球根類など、特徴的な植物の選択的管理の実施

季節に応じた企画の展開		
・ 歳時記に応じたきめ細やかなイベントの実施	→	イベントの充実を検討 (例) ・ 園内等の竹を使った竹明かりアート、 蛍鑑賞会、稲わらアート等の実施
・ 春の田植え、秋の収穫をはじめとする里山の体験プログラムの充実	→	体験プログラムの充実を検討 (例) ・ 水田、畑における農業体験の実施
閑散期を底上げした通年型の公園づくり		
・ 歳時記に応じたきめ細やかなイベントの実施【再掲】	→	イベントの充実を検討 (例) ・ 園内等の竹を使った竹明かりアート、 蛍鑑賞会、稲わらアート等の実施
天候に関係なく楽しめるイベント		
・ 屋内施設における滞在型体験プログラムの充実	→	屋内プログラムの充実を検討 (例) ・ 子供の屋内遊び場の整備 ・ 荒天対策も兼ね、イベント等に使用できる屋根付き広場の設置
③地域の振興に資する公園づくり		
観光拠点としての事業展開		
・ 既存建築物を活用し、美濃和紙の紙すき体験等、地場産業との連携による産業観光の強化	→	更なる充実を検討 (例) ・ 地元農産物の育成体験等の実施 ・ 和紙を使ったクラフト体験の実施
・ 人道の丘公園、花フェスタ記念公園等と連携した周遊観光の促進	→	広報の相互連携等を検討
・ 多言語マップ、多言語ガイド機能の充実	→	他の県営3公園と歩調を合わせて実施を検討
・ 季節に応じた里山を代表する花木による修景の展開【再掲】	→	森林管理計画に合わせて、景観修景計画の方針を検討 (例) ・ 園内森林の低木伐採を含めた整備と、桜等の植栽を含めた植栽計画の立案、実施
・ 記念撮影に適したポイントの整備【再掲】	→	渓谷沿いなど、写真スポットの修景計画を検討 (例) ・ 渓谷沿いの散策路の整備 ・ 樹木等による修景の実施

	・WiFiスポットの整備による来園者の利便向上	→	H28~29年度に整備中
	・ソーシャルネットワーク等の活用による公園の魅力発信とイベント情報の提供	→	更なる充実を検討
	・利用者サービス、ホスピタリティの向上【再掲】	→	スタッフ教育や利便施設の充実を検討 (例) ・入口付近にカフェを整備
	・わかりやすいサインの整備【再掲】	→	整備を検討
	・利用しやすい料金体系の検討【再掲】	→	利用者満足度を向上させる料金体系へ変更を検討
コンベンションやイベントの誘致・開催			
	・「美濃和紙あかりアート」との連携イベントの開催	→	関係機関と協議し、実施を検討
	・未供用地を活用した里山イベントの誘致	→	美濃加茂市と協議し、更なる充実を検討 (例) ・森のようちえん ・里山管理体験
公園オリジナル商品の開発や飲食物販等の充実			
	・岐阜の魅力をPRできる飲食物販の強化	→	更なる充実を検討 (例) ・地元縁のある菓子店等の出店の呼びかけを実施
	・飲食の提供メニューの充実と魅力向上	→	更なる充実を検討
産業振興としての利活用			
	・既存建築物を活用し、美濃和紙の紙すき体験等、地場産業との連携による産業観光の強化【再掲】	→	更なる充実を検討 (例) ・地元農産物の育成体験等の実施 ・和紙を使ったクラフト体験の実施
	・地方移住定住希望者向けの里山体験の実施	→	美濃加茂市をはじめとする地元自治体と協議し、更なる充実を検討 (例) ・里山体験活動を実施
④地域資源をつなぐ公園づくり			
世界遺産等の地域ブランドとの連携			
	・既存建築物を活用し、美濃和紙の紙すき体験等、地場産業との連携による産業観光の強化【再掲】	→	更なる充実を検討 (例) ・地元農産物の育成体験等の実施

			・和紙を使ったクラフト体験の実施
	・人道の丘公園、花フェスタ記念公園等と連携した周遊観光の促進【再掲】	→	広報の相互連携を検討
流域の魅力発信			
	・既存建築物を活用し、美濃和紙の紙すき体験等、地場産業との連携による産業観光の強化【再掲】	→	更なる充実を検討 (例) ・地元農産物の育成体験等の実施 ・和紙を使ったクラフト体験の実施
	・ソーシャルネットワーク等の活用による公園の魅力発信とイベント情報の提供【再掲】	→	更なる充実を検討
流域の地域資源を体験できるプログラムの提供			
	・既存建築物を活用し、美濃和紙の紙すき体験等、地場産業との連携による産業観光の強化【再掲】	→	更なる充実を検討 (例) ・地元農産物の育成体験等の実施 ・和紙を使ったクラフト体験の実施
	・春の田植え、秋の収穫をはじめとする里山の体験プログラムの充実【再掲】	→	体験プログラムの充実を検討 (例) ・水田、畑における農業体験の実施
⑤人を育む公園づくり			
各公園の特徴を生かした人づくり			
	・里山における遊びや動物とのふれあい等の体験プログラムを企画・指導できる人材の育成	→	美濃加茂市と連携し、「森のようちえん」から「森林作業」まで、徐々にステップアップするプログラムの企画等 を検討 (例) ・森のようちえん指導者講習 ・里山手入れ講習
	・里山体験による「木育」の推進の場づくり	→	美濃加茂市と連携し、「森のようちえん」の活動団体の公募
	・森林文化アカデミーの一部機能の園内での展開	→	森林文化アカデミーと協議し、園内における森林の利活用について、協力体制の構築を検討
	・農業高校等の教育機関との連携	→	今後の連携に向け、関係機関と協議し、実施を検討 (例) ・高校のアンテナショップ
	・公園サポーターの充実	→	新しい市民参加の在り方を検討

⑥多様な主体が参画する公園		
地域住民との協働		
・遠足の誘致や「木育」をはじめとする教育プログラムの開発による学校団体利用の促進【再掲】	→	園内への遠足誘致や「森のようちえん」の開催にむけ、必要な環境整備を検討(例) ・森林の林床整備
・夏まつりや市民マラソン等、周辺自治体や地元自治会との連携イベントの拡充【再掲】	→	環境フェア、市民まつり、ハーフマラソン等、今後も美濃加茂市をはじめとする周辺自治体と連携を検討
・遊具の拡充や「森のようちえん」等のイベントによる子どもの遊び環境の充実【再掲】	→	遊具の設置や園内の環境整備を検討(例) ・入口部分と園内に大型遊具整備 ・森林の林床整備 ・子供の雨天対応の遊び場整備
企業との協働		
・既存建築物を活用し、美濃和紙の紙すき体験等、地場産業との連携による産業観光の強化【再掲】	→	更なる充実を検討(例) ・地元農産物の育成体験等の実施 ・和紙を使ったクラフト体験の実施
NPO、ボランティア活動の支援と活動の場の提供		
・NPO、ボランティア活動の支援と活動の場の提供	→	NPO、ボランティア団体と協議し、市民参加の在り方を検討
・公園サポーターの充実【再掲】	→	各種団体と協議し、市民参加の在り方を検討

2 公園運営の考え方

観光施設である「日本昭和村」の入園料は、大人 830 円、小人 400 円となっており、ものづくり体験等は別料金となっている。年間の入園料収入約 1.2 億円は、その大部分が園内の建物、花木、園路広場などの公園施設の施設維持費に充てられている。

平成記念公園は活性化基本戦略において観光施設から県営公園としての位置づけを明確にしたところである。

また、他の県営公園の施設等の施設維持費については、有料公園の花フェスタ記念公園を含め、設置者である県が指定管理料を支出し負担している。

このため、平成 30 年度からの次期指定管理については、他の県営公園と同様に、施設

維持費の一定部分に指定管理料を支出する。

3 公園名称

「日本昭和村」という愛称には、それなりの知名度はあるが、入園料に加えて園内で何かするにはさらに費用が必要であり、見て回るだけなら一度行けば十分な観光客向けの観光施設であるとのマイナスの印象を持つ者も多いとの指摘がある。また、「日本昭和村」と言う愛称は、豊かな自然と共生しながら循環型社会を形成してきた昭和30年代前半までの山村を示すものであるが、一般的に〇〇村の村という言葉は、一定のコンセプトで形成された広がりを持つ区域という意味で使われることが多いため、「日本昭和村」に、価値観が多様化していった昭和時代を象徴する様々な建物群を期待して訪れる者が少なからずいるとの反省もある。

今般、基本戦略に基づき観光施設から県営公園とするにあたり、観光施設としての名称である「日本昭和村」は、使用しないこととする。

また、平成記念公園という正式名称についても、基本戦略に定めた「人と自然が共生する里山の暮らしと文化に親しむ」というコンセプトを端的に表すとともに、広域的な誘致圏を有する公園において取り入れることの多い所在地を示す言葉を組み合わせたものに変更する。

第4章 活性化基本計画

1 ゾーンの設定

これまで整理してきた公園利用や計画地の里山の特性をふまえて、①低地～丘陵に展開する里地と里山の環境を保全活用する、②広域ネットワークの立地ポテンシャルを活かした地域の情報発信機能を強化する、③全体を見渡せず、回遊性を持つ動線となりにくい公園の景観構造を逆手に取り、広大な敷地となっている園内を5つに区分し、「立寄り型利用」と「目的型利用」の機能を補完しあう特色あるゾーンを設定する。

○エリア区分（ゾーニング図）

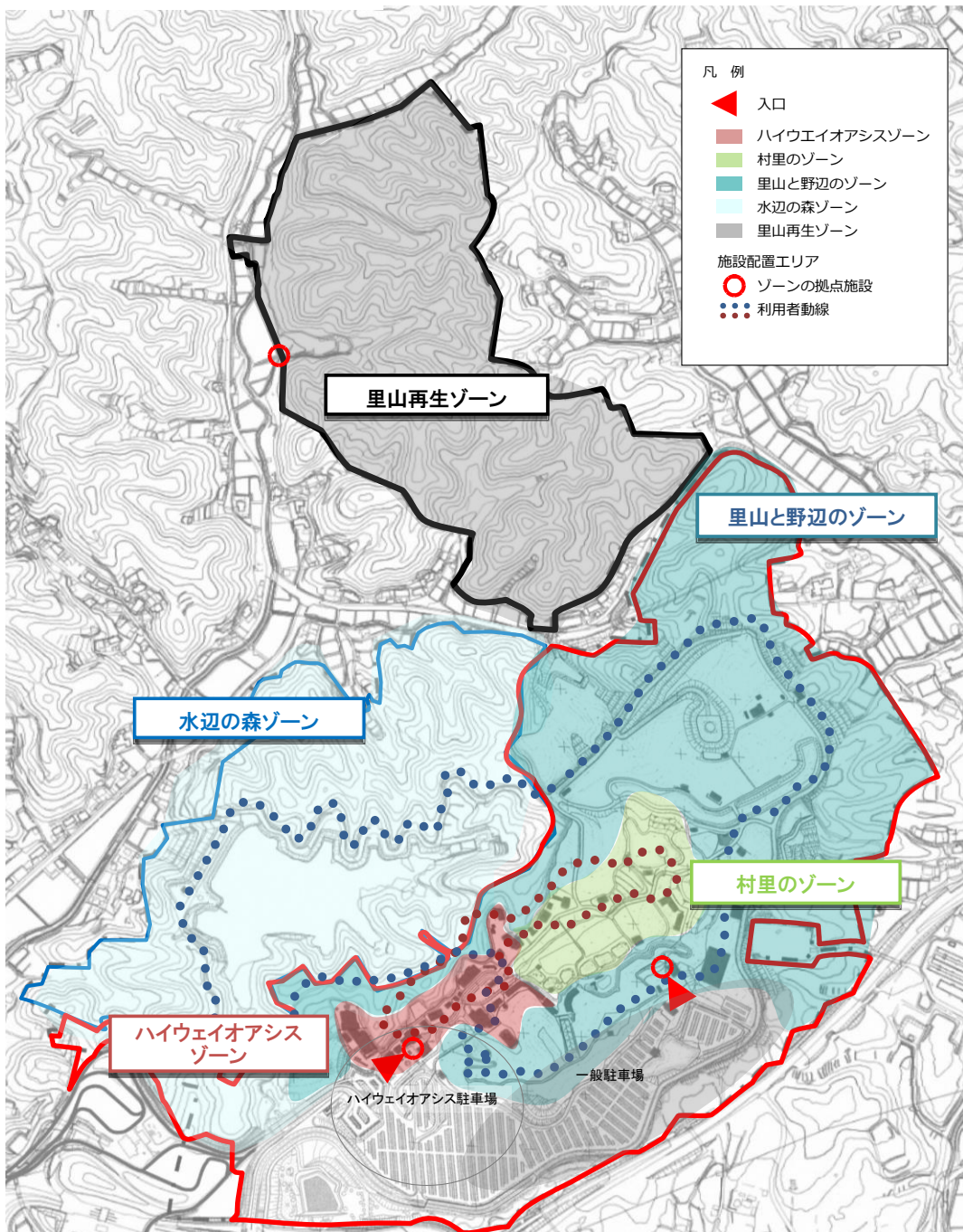


図 全体ゾーニング図

ゾーンごとの利用形態と導入施設

ゾーン名称	利用形態	利用者層のイメージ	ゾーンの内容	運営コンテンツ（例）	新たな導入施設
ハイウェイオアシスゾーン	立寄型利用	<ul style="list-style-type: none"> 観光客 団体利用客 女性グループ ファミリー カップル シニア 	<ul style="list-style-type: none"> ○当公園の顔としてふさわしく、また周辺地域への情報発信機能を持つ賑わい空間 ○ハイウェイオアシスとして立寄り型の客層が手軽に利用できる施設配置 ○地域の食材が楽しめる物販・飲食施設の運営展開を図り、賑わいを公園内へと波及させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・懐かしさと新しさを感じるコンテンツの展開 ⇒食（食材、豆腐売り、石焼芋） ⇒乗物（ボンネットバス、馬車） ⇒祭り（夏祭り、秋祭り、餅つき、どんど焼き、金魚売り、風鈴売り） ⇒映像（映画・ドラマ、演芸） ⇒芝居（演劇・地歌舞伎、紙芝居） ⇒音楽（歌謡曲・演歌・有名歌手） ⇒生活様式（銭湯）等 ⇒公園の顔・地域情報の発信機能（シンボルツリー、木製大型遊具、風車、道の駅） ⇒立寄り（茶寮、足湯、テラス） ⇒地域の食材（青空市場、朝市広場） 	<ul style="list-style-type: none"> ・大樹の遊具 ・足湯 ・茶寮 ・夕涼みテラス ・朝市広場 ・風車 ・回遊型園路 ・飲食・物販施設等（現有施設活用）
村里のゾーン	立寄型利用 目的型利用	<ul style="list-style-type: none"> 観光客 団体利用客 女性グループ ファミリー カップル シニア 学校団体 	<ul style="list-style-type: none"> ○農体験の場として楽しみの舞台とするとともに、野辺の景観向上を図る ○ホテルが生息できるなど良好な水辺環境の創出 	<ul style="list-style-type: none"> ・村里景観を舞台に岐阜の「匠の技」にふれるコンテンツの展開 ⇒里の農業体験：田植え、稲刈り、茶摘み、野菜畑、果樹園（堂上蜂屋柿等）、桑畑、ミツマタ畑、コウゾ畑 ⇒里の生活体験：炭焼き、美濃和紙、竹細工、藁細工、陶芸、木工、ソバ打ち、丸太割、家畜飼育、五右衛門風呂、産直販売、BBQ 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種団体活動拠点及び体験施設（現有施設活用）
里山と野辺のゾーン	目的型利用	<ul style="list-style-type: none"> ファミリー カップル シニア 学校団体 企業研修 	<ul style="list-style-type: none"> ○里山林を舞台に、自然環境を活かした様々な遊びが体験できる空間の創出 ○周辺地域のイベント活動など地域連携型の運営 	<ul style="list-style-type: none"> ・里山林と野辺の農の景観を楽しむ多様な遊びのコンテンツの展開 ⇒里山の林業体験（薪炭林、シイタケ栽培、竹伐採、柴刈り、落葉かき） ⇒里山林床花園（かたけ、ギボウシ、ミハツツジ等） ⇒野辺の草地管理（牧草地・萱場の草刈り、花摘み） ⇒落葉のプール・森のオープンカフェ・木育遊具（幼児）・森の知育遊具 ⇒フィールドアスレチック遊具、健康遊具・ネイチャーゲーム・キッズキャンプ ⇒ツリーハウス・ウォーキング・林間学校、BBQ、イベント広場 ⇒樹上型アスレチック・ツリークライミング ⇒トレイルラン・自然散策・自然観察会（里山の生き物）等 	<ul style="list-style-type: none"> ・芝生広場 ・森の遊具 ・森のカフェ ・野辺の原 ・BBQ広場 ・屋根付広場 ・樹上型アスレチック ・体験施設等（現有施設活用）
水辺の森ゾーン	目的型利用	<ul style="list-style-type: none"> ファミリー カップル 女性グループ シニア 地域住民 	<ul style="list-style-type: none"> ○特徴ある植生（落葉広葉樹林）や水辺景観（調整池）を活かした散策ルートの設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・調整池の水辺を楽しむコンテンツの展開 ⇒自然観察会（水鳥・渡り鳥等）・風景鑑賞撮影会・自然散策 ⇒サイクリング・トレイルラン・ホーストレッキング 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然観察会、ホーストレッキング等に利用できる園路
里山再生ゾーン	目的型利用	<ul style="list-style-type: none"> 公園利用者 地域住民 地元学校 地元企業 森林組合 	<ul style="list-style-type: none"> ○里山林の再生のための管理活動を通じて地元との交流を楽しむ市民協働の森 ○里山林の管理の状況に応じて、「森のようちえん」を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・里山再生のための体験活動と里山環境を楽しむコンテンツの展開 ⇒森のようちえん・森の図書館・自然観察会（奥山の生き物）・自然散策 ⇒里山管理活動（森林文化アカデミー）、自力建設体験（たくみアカデミー） ⇒ヤギの除草隊・トレイルラン（⇒美濃加茂市健康の森へ） ⇒アベマキ学校机プロジェクト 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然散策路（現有施設活用）

2 動線計画

ゾーンごとの連携を高め、それぞれの機能を効果的につなぎあわせる動線を設定する。

● 主動線

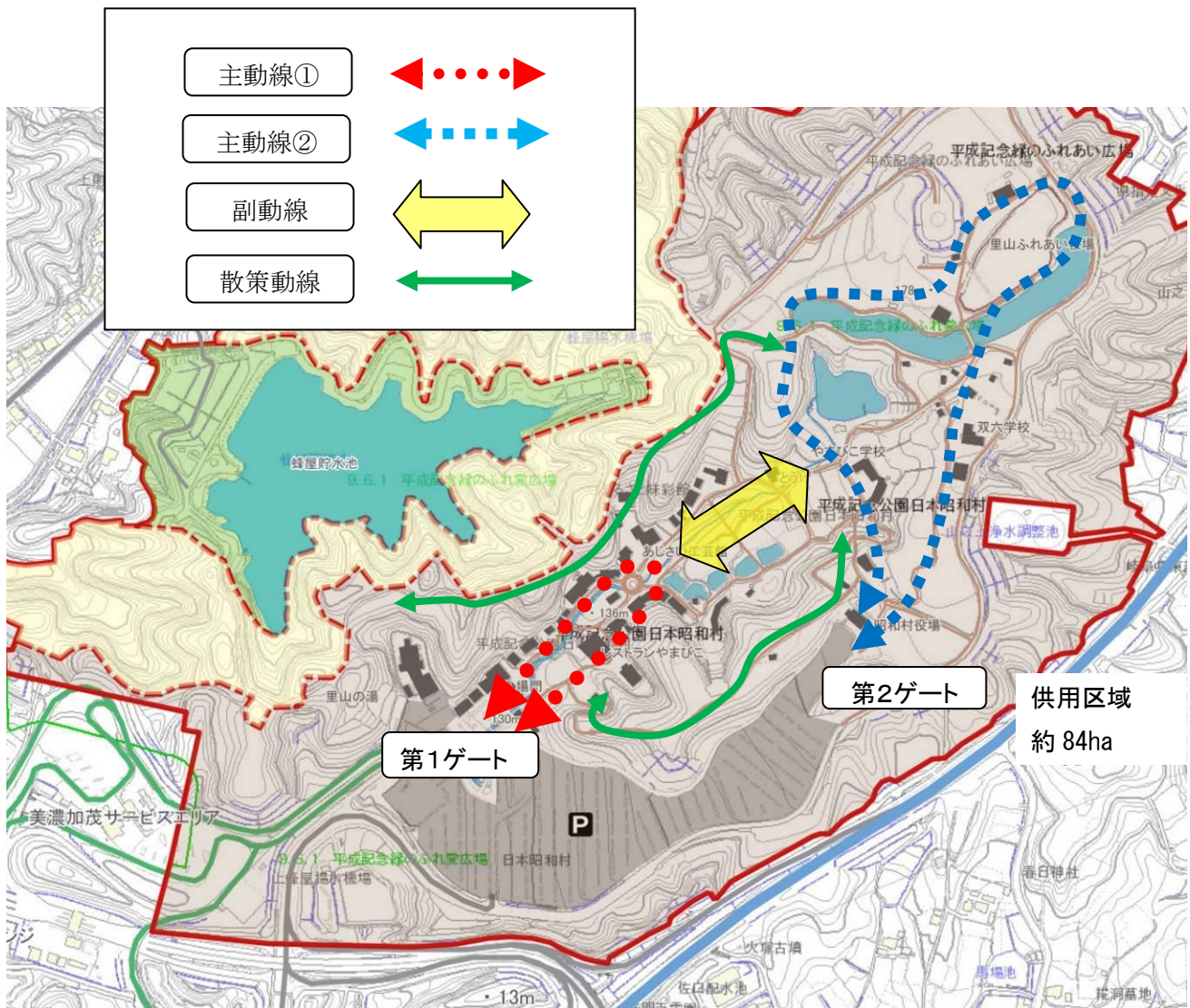
- ① 第1ゲートから入場しハイウェイオアシスゾーンを周遊する動線
- ② 第2ゲートから入場し、里山と野辺のゾーンを周遊する動線

● 副動線

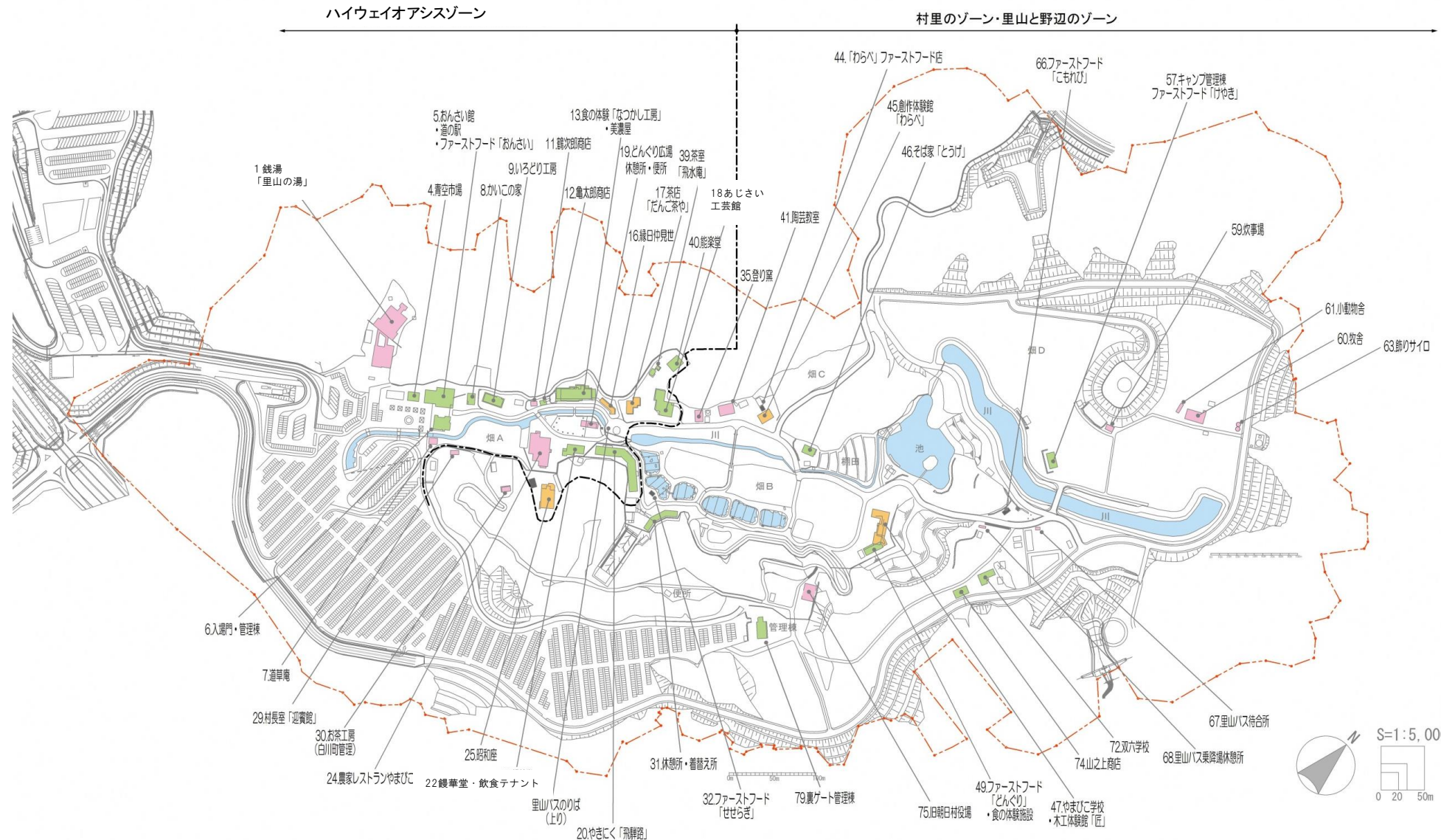
主動線の①と②をつなぎ、村里のゾーンを利用する動線

● 散策動線

森の魅力を楽しみながら散策できる動線



3 現有施設活用方針



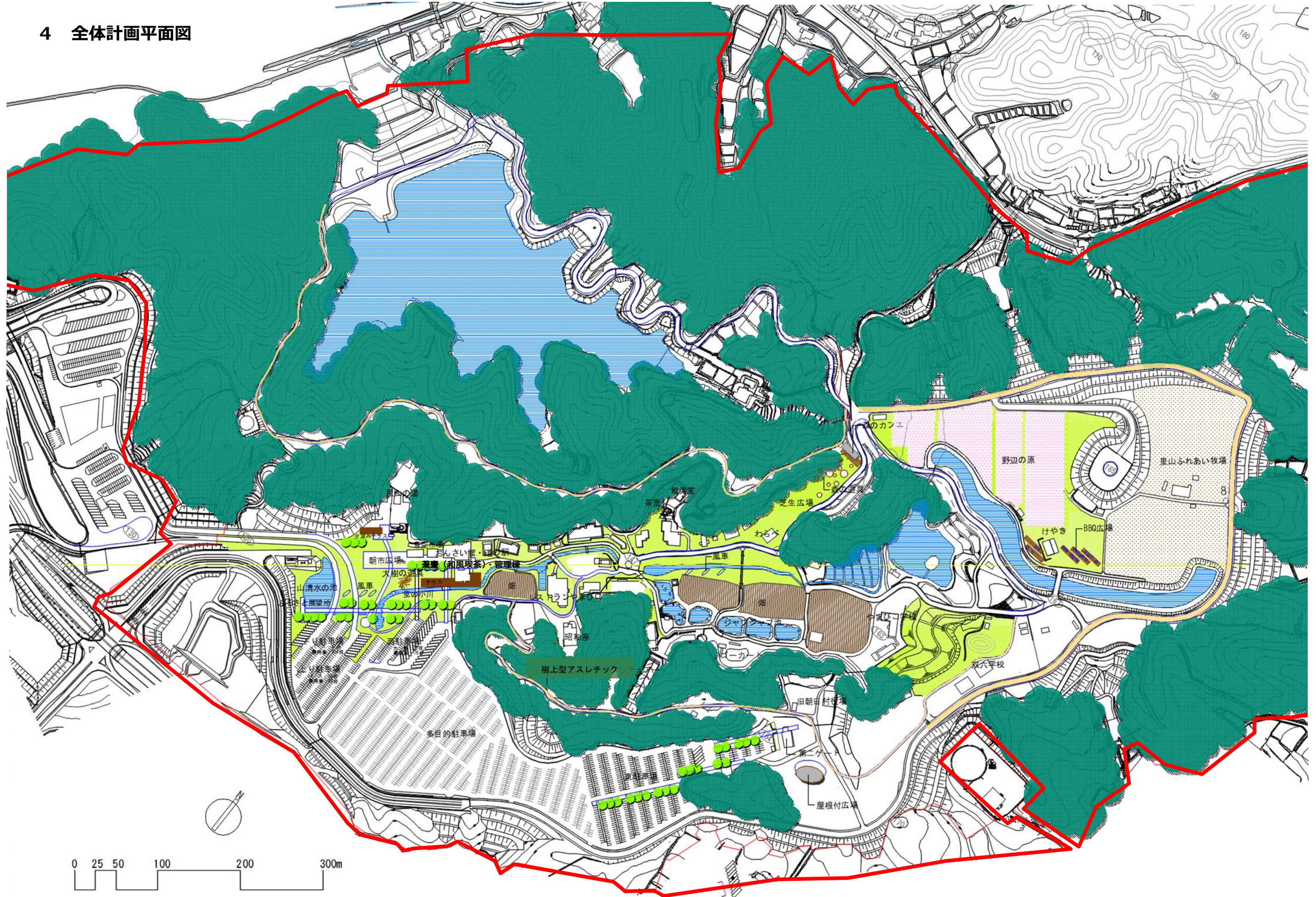
凡例

機能向上	現状維持
用途変更	廃止

ハイウェイオアシスゾーン				
番号	施設名	現在の用途	区分	新しい用途
1	銭湯「里山の湯」	銭湯	現状維持	
1	里山食堂	飲食施設	現状維持	
4	青空市場	物販施設	現状維持	
5	おんさい館	物販施設	機能向上	従来の物販品に加え、野菜、肉類などの品目を拡大
5	道の駅	物販施設・情報発信施設		
5	ファーストフード「おんさい」	飲食施設	機能向上	
6	入場門・管理棟	入場門・管理棟	用途変更	一部を休憩施設・情報発信施設に変更
7	道草庵	休憩所	廃止	
8	かいこの家	展示見学施設	用途変更	喫茶
9	いろどり工房	体験施設・物販施設	用途変更	軽食
11	鶴次郎商店	体験施設・物販施設	現状維持	
12	旧亀太郎商店	休憩施設	用途変更	軽食施設
13	食の体験なつかし工房	体験施設	用途変更	菓子・雑貨販売
13	美濃屋	物販施設	用途変更	菓子販売・休憩所
16	緑日仲見世	物販施設・展示施設	用途変更	酒、甘酒、雑貨販売・展示
17	だんご茶や	飲食施設	現状維持	
18	あじさい工芸館	飲食施設	用途変更	とうふを利用した菓子・とうふ料理
19	どんぐり広場休憩所・便所	ステージ・トイレ	現状維持	
20	やきにく「飛騨路」	飲食施設	現状維持	
22	饅華堂	飲食施設	現状維持	
22	飲食テナント	飲食施設	現状維持	
24	農家レストランやまびこ	飲食施設	現状維持	
25	昭和座	芝居、映画鑑賞施設	現状維持	
39	茶室「飛水庵」	茶室	現状維持	
40	能楽堂	能楽堂	機能向上	琴の演奏会や地歌舞伎の公演などのステージとして利用

村里ゾーン・里山と野辺のゾーン				
番号	施設名	現在の用途	区分	新しい用途
29	村長室「迎賓館」	応急救護室	現状維持	
30	お茶工房(白川町管理)	体験施設	現状維持	
31	じゃぶじゃぶ池休憩所	休憩施設	機能向上	更衣室(スポーツイベント用) 五右衛門風呂(森のようちえん体験用)
31	着替え所	着替え施設	現状維持	
32	ファーストフード店	飲食施設	廃止	
35	登り窯	登り窯	現状維持	
41	陶芸教室	体験施設	現状維持	
44	「わらべ」ファーストフード店	飲食施設	廃止	撤去
45	創作体験館「わらべ」	体験施設	現状維持	
46	そば屋「とうげ」	飲食施設	用途変更	ソバ打ち体験施設
47	やまびこ学校	展示施設	機能向上	ボランティア活動拠点施設
47	木工体験館「匠」	体験施設	—	やまびこ学校に統合
49	ファーストフード「どんぐり」	飲食施設	機能向上	野菜等の販売
49	食の体験施設	炊事施設	機能向上	
57	キャンプ管理棟	体験施設	機能向上	BBQ場
57	ファーストフード「けやき」	飲食施設	機能向上	
59	炊事場	炊事場	現状維持	
60	牧舎	牧舎	現状維持	
61	小動物舎	動物舎	現状維持	
63	飾りサイロ	倉庫	現状維持	
66	ファーストフード店「こもれび」	飲食施設	廃止	
67	里山バス待合所	バス待合所	現状維持	
68	里山バス乗降場休憩所	バス待合所兼休憩所	現状維持	
72	双六小学校	体験施設	用途変更	地域連携の場(夜間)
74	山之上商店	物販施設	現状維持	
75	旧朝日村役場	展示施設	現状維持	
79	裏ゲート管理棟	管理ゲート	現状維持	

4 全体計画平面図



施設の概要

<ハイウェイオアシスゾーン>

里山カフェ・管理棟、テラス、朝市広場

現在の「管理棟」を改修し、最低限の管理棟機能を残した上で、情報発信機能と休憩機能を持つ施設に改修。休憩機能の一環として、屋内と屋外テラスにて飲食が楽しめる茶寮（和風喫茶）を設置する。また、現在の農産物直売所に加え、屋外において定期的に野菜、花きを販売する「朝市広場」を設置する。



<イメージ>



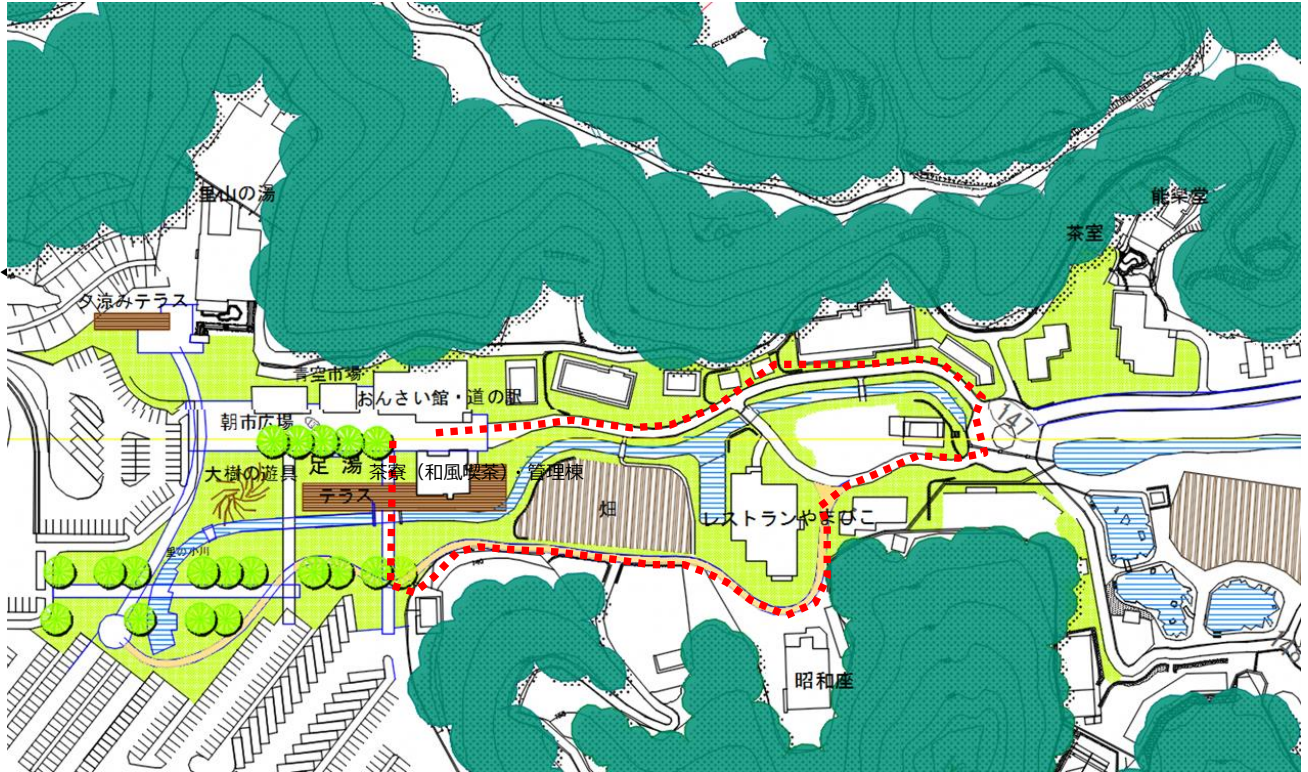
大樹の遊具、足湯、夕涼みテラス

入口ゲート前、朝市広場の隣接地に、遊具の周りに高木を植栽した大型遊具「大樹の遊具」と「足湯」を設置し、茶寮（和風喫茶）等と合わせ、来園者が利用しやすくなるような空間づくりを行う。また、銭湯の前にも「夕涼みテラス」を設置し、待ち合わせスペースとしての利用もできるようにする。



回遊型園路

今までの園路に加え、ハイウェイオアシスゾーンの回遊性を確保するため、一部園路の拡幅を行う(点線は、想定している回遊型園路)。



<整備予想図>



駐車場からハイウェイオアシスゾーンを望む



ハイウェイオアシスゾーン入口付近状況

<村里のゾーン>

芝生広場・森のカフェ・森の遊具

体験施設「わらべ」から「森のカフェ」をつなぐ「芝生広場」を整備する。芝生広場には「森の遊具」と呼ばれる大型遊具を設置し、子供と一緒に広場で遊んだり、子供が遊んでいるのをカフェから見守ったりできる空間を整備する。



<イメージ>

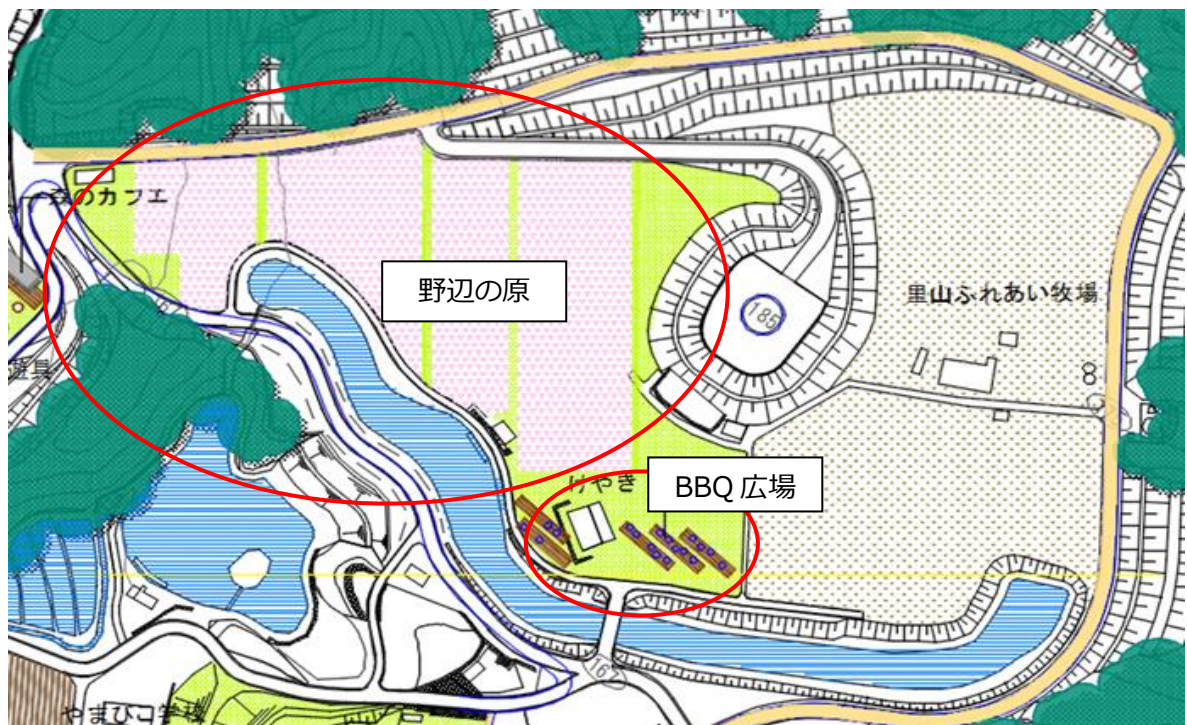


<里山と野辺のゾーン>

野辺の原・BBQ 広場

「野辺の原」は、里山と対となる広大な草地を園内に再現する。ソバやコスモス、野草等を植栽し、野辺の彩りを行うとともに、周辺地域に園内の茅葺き屋根の材料となるススキの植栽も行う。

「BBQ 広場」は、デイキャンプ、BBQ を楽しむ広場。手ぶらで来ても楽しめるように整備するとともに、ゆったりとした芝生広場とし、大径木の緑陰樹を適宜配置することで、快適で居心地よい広場とする。

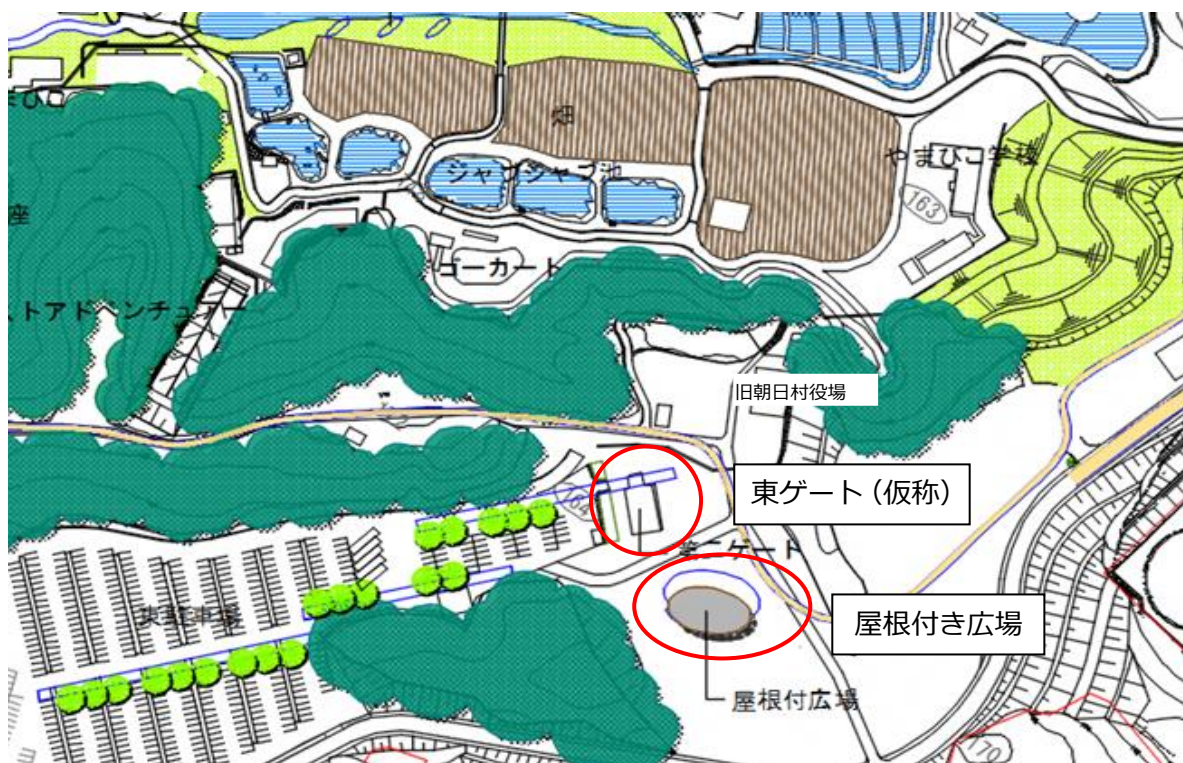


<イメージ>



屋根付き広場・東ゲート(仮称)

地域連携イベントを開催したり、荒天時の退避場所も兼ねる屋根付き広場を設置する。また、この広場や動物飼育施設へのアクセス向上のため、東ゲート(仮称)の整備を行う。

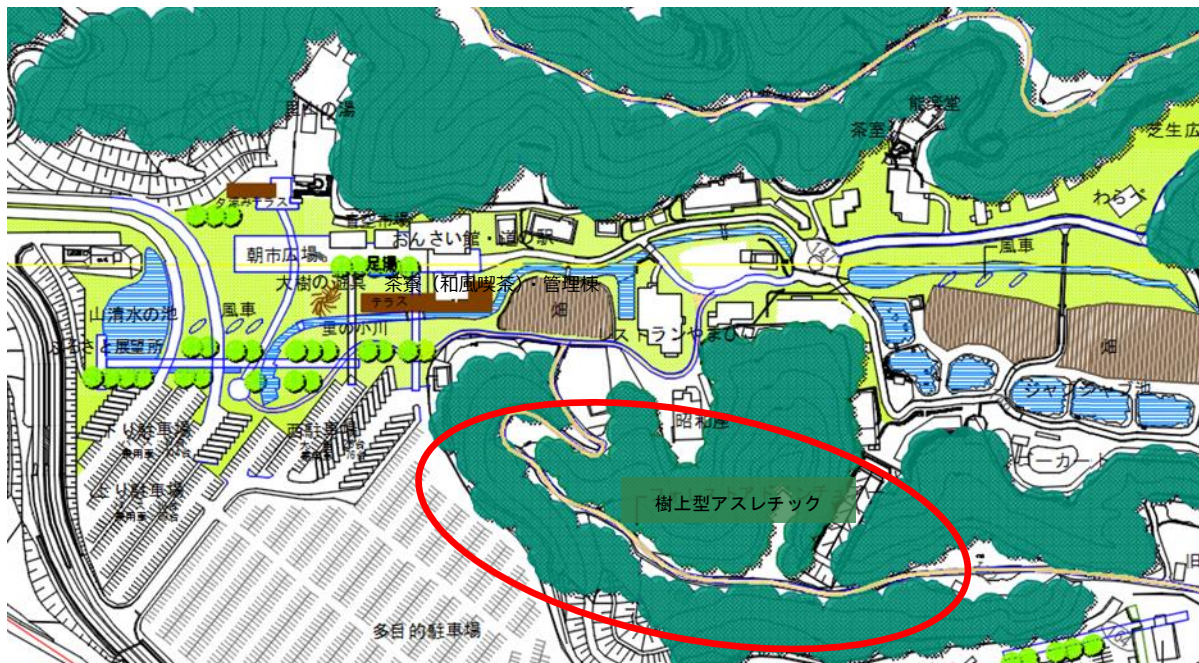


<イメージ>



樹上型アスレチック

園内林を整備し、そこに山林の地形、生育している樹木を活かした樹上型のアスレチックコースを設定し、樹林での遊びを体験してもらう体験型施設を設置する。



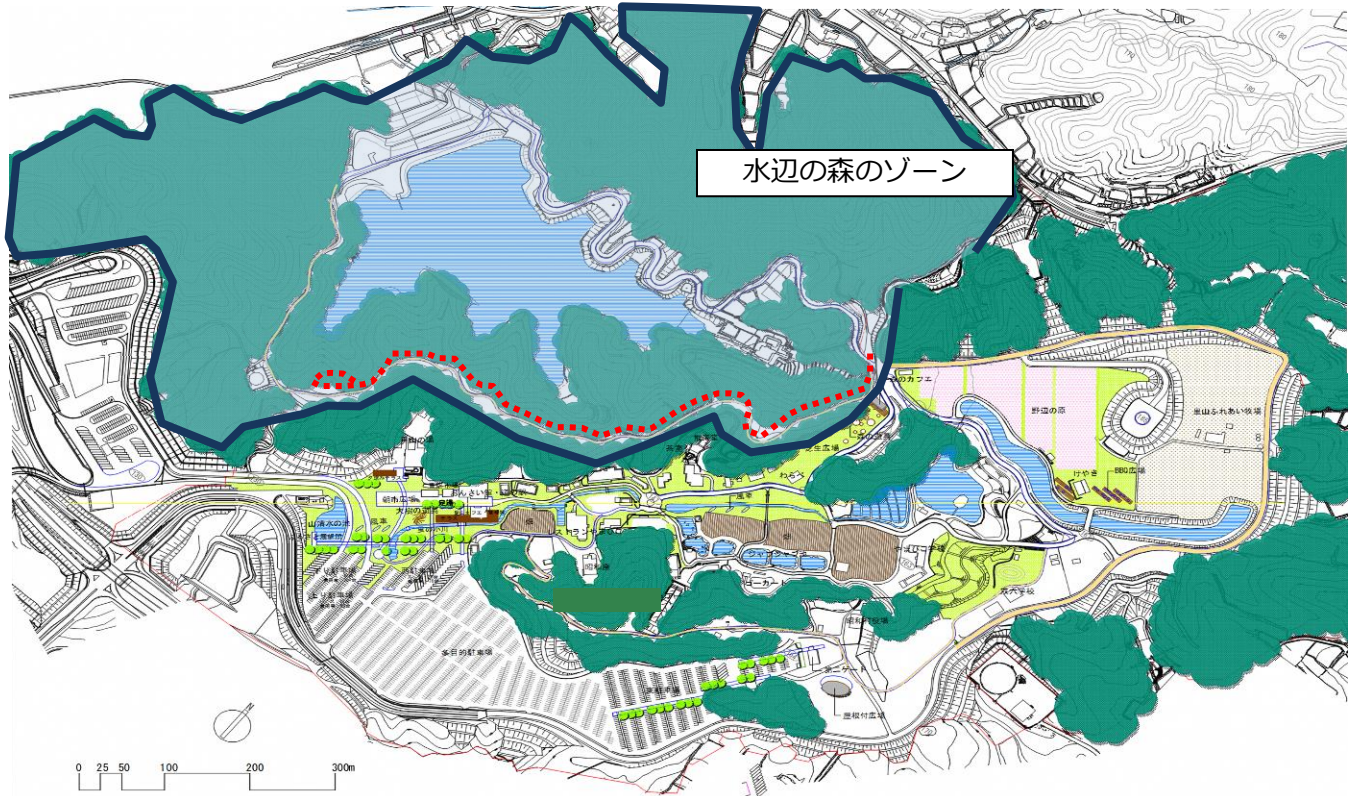
<イメージ>



<水辺の森のゾーン>

ホーストレッキング等の散策路

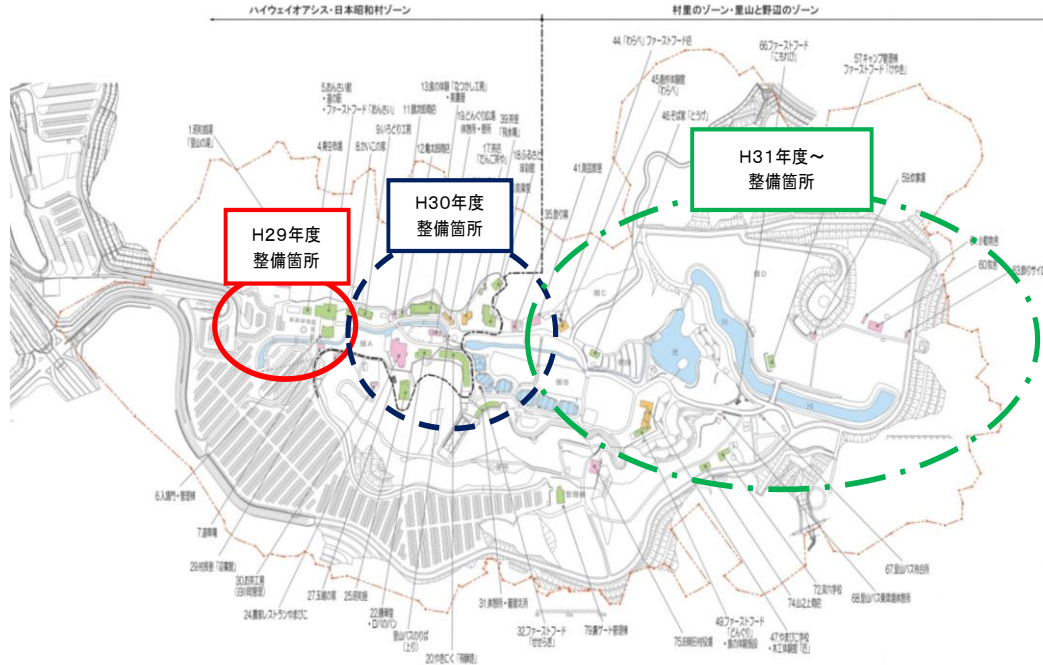
「水辺の森のゾーン」は、自然保護を重視し、案内人や指導者が同伴する形態での利用に限定し、馬によるホーストレッキングや自然観察会などを実施する散策路(下図点線)を整備する。散策路は、馬の歩行を考慮した舗装とする。



<イメージ>



5 整備スケジュール



整備年次計画表

整備年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度～
主な整備箇所	入場門・管理棟→一部を休憩施設(和風喫茶)、情報発信施設	縁日仲見世改修→酒、甘酒、雑貨販売、展示施設	能楽堂周辺整備→琴演奏、地歌舞伎などの施設
	おんさい館、道の駅改修→農産物直売所、物産館	食の体験工房改修→菓子、雑貨販売施設	やまびこ学校改修→ボランティア活動拠点施設
	足湯	美濃屋改修→菓子販売施設、休憩所	食の体験施設改修→野菜等の販売
	大樹の遊具	あじさい工芸館改修→豆腐料理販売施設	キャンプ管理棟、ファストフードけやき改修→BBQ施設
	回遊型園路		
	朝市広場		屋根付き広場、森の遊具、新規園路(馬歩行可能なもの含む)、修景工事

第5章 運営管理方針

1 年間利用者数の算定

- ・高速道からの利用客：約 20 万人
交通センサス等により算定
- ・一般道からの利用者：約 55 万人
入園料無料化に伴う増 2.05 倍（百年公園駐車場無料化の実績より）
- ・里山の湯利用者：約 10 万人
実績により算定

合計→ 年間入園者総定数 約 85 万人

2 収支分析

上述より年間入園者数を 85 万人と想定し、施設等の利用回数から収支を算出

- ・面積 111ha
- ・事業期間 平成30年4月1日～平成37年3月31日（7年間）

（単位：百万円）

	合計	ハイウェイオアシス ゾーン	村里、里山と野辺、水辺と森のゾーン	
				ものづくり体験
支出	4,929	3,244	1,685	
収入	4,331	3,400	0	931
収支差	△598	156	△754	

3 管理運営方法

ハイウェイオアシスゾーンは、「指定管理料を充当することを禁止する独立採算ゾーン」とし、村里、里山と野辺、水辺と森の3ゾーンは、他の県営公園同様に「指定管理料を充当して管理するゾーン」とする。

「指定管理料を充当して管理するゾーン」の管理費を754百万円、「独立採算ゾーン」から拠出する利益を156百万円と見込み、入園料は徴取しない。

4 供用区域

南側未供用区域(蜂屋調整池周辺)は、散策路等の最低限の整備を行った後に供用開始し、指定管理者の管理区域に追加する。ただし、森林の持つ環境保全機能を重視し、体験学習等指導者が同伴する形態での利用に限定するものとし、来園者のみの自由使用としない。なお、北側未供用区域は、引き続き美濃加茂市と協働して県が管理する。

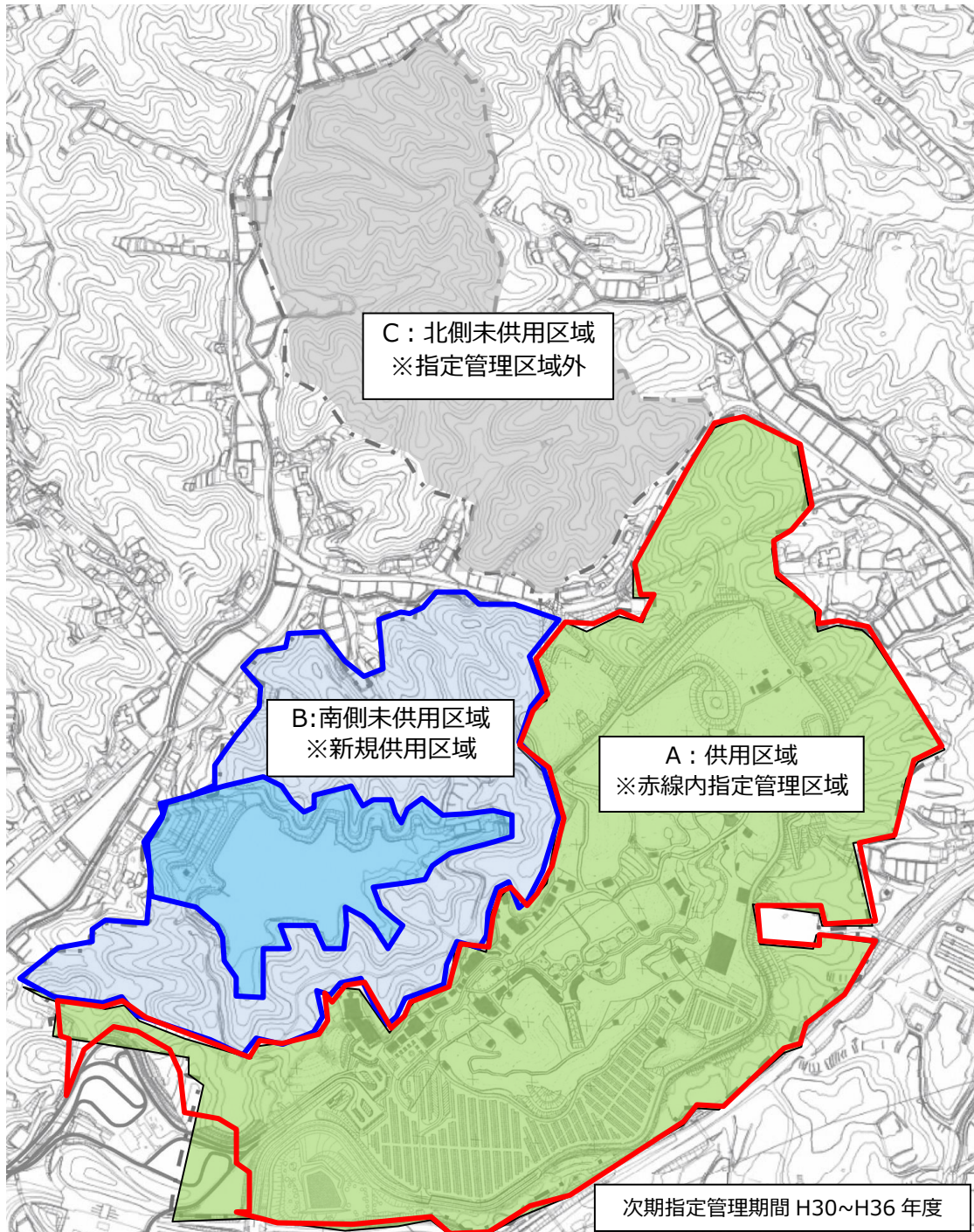


図 供用区域・指定管理区域

5 推進体制

改正都市公園法に基づき、県、指定管理者、関係行政機関、関係地方公共団体、学識経験者、商工団体、農業団体等からなる「都市公園の活性化に関する法定協議会」を設立し、活性化基本計画を推進する。

6 周辺地域との連携

美濃加茂市内に「森のようちえん」を開催している団体が数団体あるが、民有林の利用は権利関係もあり開催が困難な場合が多いため、会場の選定に苦慮しているとの声がある。このニーズに応えるため、公園区域を活用して森のようちえんを日常的に開催できるよう仕組みづくり、環境整備を進める。また、このような森林で活動する団体を支援するため、清流の国ぎふ森林・環境税を活用する。

また、森林文化アカデミー、国際園芸アカデミー、たくみアカデミー、岐阜大学等の教育機関と連携し、様々な教育・研究の実習フィールドとしての役割を公園に持たせるとともに、八百津町の人道の丘公園等、広域の観光拠点との連携や稲わらアート、環境フェアといった地域連携イベントを誘致するなど、地域活動の場としての役割を果たす。

7 今後の検討課題

民間活力による公園の活性化に向け、改正都市公園法に基づく「民間事業者による公共還元型の収益施設の設置」について、園内全域において可能性を検討する。

第6章 集客強化計画

1 開催イベント

法定協議会での協議を行い、新たなイベントを誘致する他、年間を通じて地域の伝統文化に配慮したさまざまなイベントなどを地元市町等と連携し開催していく。具体的な内容は次頁のイベントが考えられる。

2 食・おみやげ等

地元の有名食品店（和・洋菓子、肉料理、魚料理、パン等）や、土産物店とコラボレートした公園のオリジナル商品の開発等により、公園の魅力を向上させ、これを契機にイベント時のみの出店から、公園内への常設出店につなげていく。

3 情報発信

SNSを通じた情報発信については、第三者に発信してもらうための情報について、コンテンツの強化を図る。外国人を含め、地域住民以外は、この地域に対して全く土地勘がないことが多いため、地元ならではの話題を周囲の自治体と連携して地道に紹介し、誘客やインバウンドにつなげていく。

<平成記念公園 年間イベントカレンダー>

ジャンル	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	春のイベント			夏のイベント			秋のイベント		冬のイベント			春のイベント
花まつり	■桜まつり	■つつじまつり	■あじさいまつり	■向日葵まつり				■紅葉まつり				■菜の花まつり ■アイスチューリップまつり
植物展示	■御殿椿展	■盆栽展	■肥後花菖蒲展	■変化朝顔展 ■ギボウシ展	■斑入り植物展	■お月見まつり	■山野草展 ■美濃菊展	■盆栽展				■盆栽展
展示	■ラリーカー展示	■こいのぼり展示			■クラシックカー展示				■クリスマス展示	■正月展示		■ひな祭り展示
収穫		■田植、野菜植付け大会				■稲刈祭	■収穫祭					
体験		■田植え体験	■茶華道体験			■稲刈体験			■機織り体験	■書初め体験	■スキ刈り体験	■紙漉き体験会
昆虫			■ホテル観賞会	■虫追まつり	■昆虫採集会 (カブトムシ等)	■昆虫鑑賞会 (アサギマダラ等)	■昆虫鑑賞会 (スズムシ等)					
大会 イベント			■ファッションショー (結婚式)	■花火大会	■かるた大会 ■じゃぶ池大会	■和太鼓まつり	■キャラクターショー	■ジャズコンサート		■花火大会 ■たき火まつり	■琴の演奏会	
アート				■チェーンソーアート				■稲わらアート				
地元の イベント							■食の陣 (青年会議所)	■環境フェア (美濃加茂・加茂郡)	■加茂駅伝 (美濃加茂市)	■ハーフマラソン	■公園活動市民 団体発表会	
							■おんさいEXPO (富加町)	■市民まつり (美濃加茂市)	■小学生駅伝 (美濃加茂市)			
	■森のようちえん ■自然観察会 ■里山手入れ講座 ■里山遊び講座											